



# 中部電力グループのCSR

公益性の高い事業を営む中部電力グループは、社会からの信頼こそが事業の基盤であると考えています。

このため、事業活動に関わる全てのステークホルダーの皆さまからのご期待に誠実にお応えするとともに、適切な情報開示によって説明責任を果たし、CSR(企業の社会的責任:Corporate Social Responsibility)を実践してまいります。

この理念を「中部電力グループCSR宣言」として掲げ、皆さまにお約束いたします。

## 中部電力グループCSR宣言

### 社会からの期待にお応えし責任を果たすために

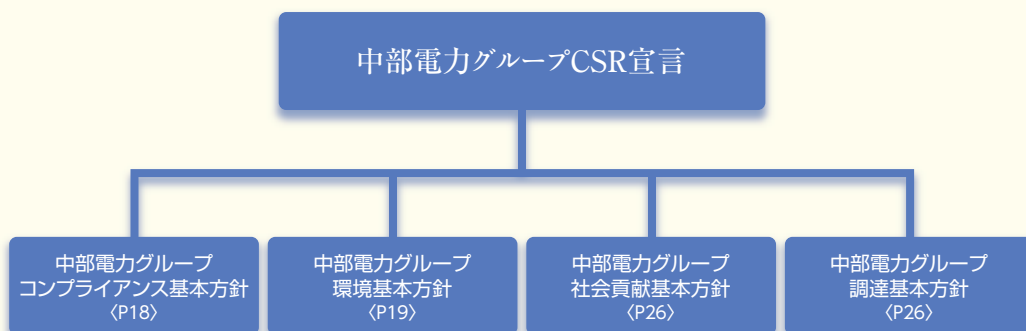
私ども中部電力グループは、エネルギーに関するあらゆるニーズにお応えし、成長し続ける企業グループとして、それぞれの個性を活かしながらエネルギーを基軸とした事業に総合力を発揮し、安全を最優先に、安定供給を果たすと同時に地球環境の保全に努め、持続可能な社会の発展に貢献します。

事業運営にあたっては、国内外の法令・ルールを守り、企業倫理を重んじて公正・誠実に行動します。

事業活動に関わる全ての方々との相互コミュニケーションを重視し、透明性の高い開かれた企業活動を推進します。

- |          |  |
|----------|--|
| (お客さま)   | 安心・便利・安価なエネルギーサービスをはじめ、お客さまのニーズに応える価値あるサービスをお届けします |
| (株主・投資家) | 効率経営と効果的投資により、収益の維持・拡大を図ります                        |
| (地域社会)   | 地域社会と協調し、地域の持続的発展に貢献します                            |
| (取引先)    | 事業のパートナーとして対等な立場で公正な取引を行います                        |
| (従業員)    | 個人を尊重し、明るく働きがいのある職場づくりに努めます                        |

### 社会的責任に関する宣言・方針の体系



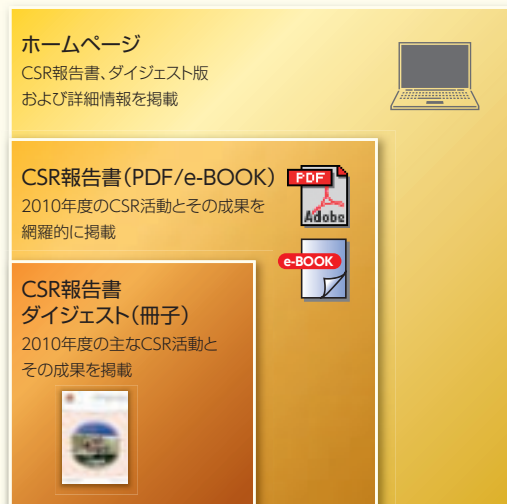
## 編集方針

「CSR報告書2011」は、持続可能な社会の実現を目指す中部電力グループのCSRについて、ステークホルダーの皆さまへご報告するとともに、取り組みの改善に向けたグループ内の意識向上を目的としています。

編集にあたっては、2010年度を中心とした中部電力グループの環境面・社会面をはじめとするCSRの取り組みとその成果について、ステークホルダーの皆さまの関心度合いが高く、中部電力グループにとって重要な内容を中心に構成しています。

また、それらを要約した「CSR報告書2011ダイジェスト」(本書)を冊子として発行しました。

なお、中部電力ホームページでは、CSR報告書のPDF/e-BOOKとともに、より詳細な情報を掲載しています。



## 報告の範囲

### ●対象組織

中部電力株式会社およびグループ会社

### ●対象期間

2010年度(2010年4月～2011年3月)

(上記期間外の重要な情報についても一部ご報告しています)

## 参考にしたガイドライン

GRI/サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006

環境省/環境報告ガイドライン2007年版

ISO26000

## 前回発行年月/次回発行予定年月

2010年7月/2012年7月

## 凡例

### Look! P00

本報告書の指定のページに関連記事などを掲載しています。

### PDF/e-BOOK

「中部電力グループCSR報告書2011(PDF/e-BOOK)」に詳細情報を掲載しています。

### HP

中部電力ホームページに、詳細情報を掲載しています。

<http://www.chuden.co.jp>

### Web

関連するウェブサイトを示しています。

# CONTENTS

## 中部電力グループCSR報告書2011 ダイジェスト 目次

### 中部電力グループのCSR

### 編集方針・目次

### 社長メッセージ

1

### 特集

#### 浜岡原子力発電所運転停止に伴う需給対策

3

#### 浜岡原子力発電所の津波対策

5

#### 中部電力グループ 経営ビジョン 2030

9

#### 再生可能エネルギー発電の推進

11

#### 阿摺水力発電所における無許可工事などの概要と対応

13

### エネルギーの安全・安定供給

#### 低炭素で良質なエネルギーをお届けするために

15

#### 「エネルギーサービスNo.1企業グループ」の実現

16

### ガバナンス

#### CSRの推進

17

#### コーポレート・ガバナンス

17

#### コンプライアンス

18

### 環境報告

#### 環境方針・推進体制

19

#### 低炭素社会の実現

19

#### 自然との共生・循環型社会の形成

21

#### 連携活動

22

#### アクションプラン

23

### 社会報告

#### お客さま

25

#### 株主・投資家

25

#### 取引先

26

#### 地域・社会

26

#### 従業員

27

#### ステークホルダーとの対話活動/第三者評価

29

### 会社概要

共に持続可能な社会を築くパートナーとして、  
皆さまとのきずなを大切に、  
「エネルギーサービスNo.1企業グループ」を目指してまいります。

3月に発生した東日本大震災によりお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

## 浜岡原子力発電所の運転停止

今年5月、当社は内閣総理大臣からの要請を受け、浜岡原子力発電所の運転を停止いたしました。

浜岡原子力発電所は、想定東海地震はもとより、それを上回る安政東海地震に対し余裕をみた地震動を用いて設計していることに加え、2008年には目標地震動約1,000ガルに基づく耐震裕度向上工事を完了しています。また、津波に対しては、この地域に大きな影響を及ぼした安政東海地震や東海・東南海・南海の三連動とされる宝永地震などの津波を踏まえ、安全性を確認しています。

しかしながら、原子力発電は、社会の皆さまの信頼を得てはじめて成り立つ事業であることから、皆さまの不安に真摯に対応し、より信頼を得ていくことが最優先であると考え、更なる津波対策を完了するまでの間、浜岡原子力発電所のすべての号機の運転を停止することにいたしました。

この運転停止により、立地地域の皆さまをはじめ、お客さま、株主の皆さまなどステークホルダーの皆さまに対し、短期的には大変ご迷惑をおかけすることになりますが、先般策定した津波対策を速やかに実施し、浜岡原子力発電所の安全性を一層向上させるとともに、丁寧にご説明することで、地元をはじめ社会の皆さまの安心につながるよう、全力で取り組んでまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

## 今夏のエネルギー安定供給に向けて

電力の安定供給のためには、想定されるピーク需要に対して8~10%程度の予備力が必要ですが、浜岡原子力発電所の停止により、当社は十分な供給力を確保することが困難になりました。

このため、電力需給対策本部を設置し、電力の安定供給のための対策を検討・実施しており、供給面での対策に加えて、大規模工場などのお客さまに操業日を変更いただくなどのご協力により、6~7%の予備率を確保できる見通しです。

皆さまにおかれましてはご不便をおかけいたしますが、適切な空調温度の設定などにより節電にご協力くださるようお願いいたします。

## 地球温暖化問題への対応

私たち電気事業者は、電力供給のために石油・石炭・LNGなどの化石燃料を大量に使用しており、その結果として多くの温暖化ガスを排出しております。このため、私たちは発電時に温暖化ガスを排出しない電源として、原子力発電とともに再生可能エネルギーの積極的導入に努めております。

2010年度は、長野県飯田市において当社初の事業用メガソーラー(大規模太陽光発電)の営業運転を開始するとともに、静岡県御前崎市において新たに8基の風力発電所の営業運転を始めました。また、碧南火力発電所(石炭火力発電所)では、木質バイオマス燃料の混燃も開始しております。

人類の持続的発展のため、低炭素社会の実現は全世界共通の課題であり、中部電力グループは一層の温暖化ガス削減を目指して、今後も再生可能エネルギーの導入拡大に努めてまいります。



## CSRの根幹と経営ビジョン2030

東北地方太平洋沖地震とその津波に起因した、東日本における電力需給ひっ迫および東京電力(株)福島第一原子力発電所の重大事故を受け、私たちは、暮らしに欠かせないエネルギーを安全・安定的にお届けし、社会の発展に貢献するという電気事業者の公益的使命の重要性を痛感するとともに、それを果たすことこそが中部電力グループにとってのCSRの根幹であることを再認識いたしました。

創立60周年を迎えた今年、あらためて事業の原点を見据えつつ未来を展望し、時代を超えて大切にしたい思いを「中部電力グループ企業理念」として掲げ、その理念のもとに2030年に私たちが目指す企業の姿を「中部電力グループ経営ビジョン2030」として策定いたしました。

私たちはいつの時代においても、エネルギーの安定供給という不変の使命(=CSR)を全うするとともに、これまでのサービスを越えた新たな価値をお届けする「エネルギーサービスNo.1企業グループ」として、お客さまのご期待にお応えしてまいりたいと考えております。

## ステークホルダーの皆さまとともに

「エネルギーサービスNo.1企業グループ」を目指すにあたり、私たちが特に大切にしたいと考えているものは、ステークホルダーの皆さまとのきずなです。

良質なエネルギーをお届けするという販売活動の場にとどまらず、「環境保全活動」、「次世代教育」や「文化・スポーツ活動」などをはじめとする社会貢献の場なども通し、共に持続可能な社会を築くパートナーとして、皆さまとの信頼関係を構築してまいりたいと考えております。

このCSR報告書は、中部電力グループのCSR活動について、2010年度の主な取り組みを中心にとりまとめております。今後の報告書の充実を図るため、皆さまから忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

2011年8月



中部電力株式会社  
代表取締役社長 社長執行役員

水野 明久

# 特集 - 1

## 浜岡原子力発電所運転停止に伴う需給対策

2011年5月、中部電力は内閣総理大臣からの要請を受け、浜岡原子力発電所全号機の運転を停止したことにより、最大電力に対して供給力が大幅に不足し、安定供給に必要な適正予備率(8~10%)を下回ることから、社長を本部長とする電力需給対策本部を設置し、電力の安定供給のための対策を検討・実施してきました。

供給面の対策だけでなく、特に、大規模工場などのお客さまに操業日の変更や重負荷期からの移行などにご協力いただくことにより、今夏における供給予備率は、安定供給の目安である8~10%に達しないものの、6~7%を確保する見通しを得ることができました。生産や操業の調整などにご協力いただきました多くのお客さまに深く感謝申し上げます。

### 供給面の対策

運転停止した浜岡原子力発電所の供給力(約360万kW)を補うため、以下の対策によって供給力の向上に努めています。

項目	内容	上積み供給力
火力機の定期点検時期の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新名古屋火力発電所7-2号機の定期点検時期変更(時期分割)</li> <li>○新名古屋火力発電所7-4号機の定期点検時期変更・工期短縮</li> <li>○川越火力発電所4-4号機の定期点検時期変更(時期分割)</li> <li>○四日市火力発電所3号機の定期点検時期変更</li> <li>○川越火力発電所2号機の定期点検工期短縮等</li> </ul>	最大126万kW
他事業者からの電力購入	○大規模な発電設備を保有する事業者からの電力購入	3万kW
当社からの電力融通の停止	○50Hz地域への応援融通の取りやめ	最大75万kW
長期計画停止火力機の再稼働	○武豊火力発電所3号機の長期計画停止の繰り延べ	37.5万kW
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○武豊火力発電所2号機を7月31日から稼働</li> <li>○知多第二火力発電所2号機ガスタービン8月3日から稼働</li> </ul>	最大52.9万kW
水力発電所の作業停止時期の変更	○二軒小屋、北又度、三穂発電所等の作業停止時期の変更	最大3万kW
関西電力との連系線(三重東近江線)の緊急的な運用容量の拡大	○関西電力から中部電力向きの連系線の運用容量を暫定的に拡大(プラス28万kW)	—
発電所および関連する送変電設備などの重点的な点検	○発電所および関連する送変電設備などにおいて、安定供給に向けた夏季前の重点的な点検を確実に実施	—
燃料(LNG・石油)の追加調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>○LNG:カタールのLNGを中心に追加必要量(約320万t)を確保できる見通しを得た</li> <li>○石油:石油会社・商社を通じて追加必要量(約130万kl)を確保できる見通しを得た</li> </ul>	—

### 需要面の対策

お客さまにご協力いただきながら、下記の具体的な対策を行っています。

項目	内容
自家用発電設備の発電量増加などのお願い	○大規模な工場などのお客さまに対して、月曜日から水曜日の午後1時から午後4時に自家用発電設備の発電量増加をお願いし、当社からの受電電力が約6万kW減少する見込み
需給調整契約(計画調整契約)の拡大	○大規模な工場などのお客さまに対して、計画調整契約(工場の休日等を土日から平日に変更する契約)の調整いただく日数増などをお願いし、約9万kWの追加調整力を確保した。

## ■ピーク時の節電にご協力をお願いします。

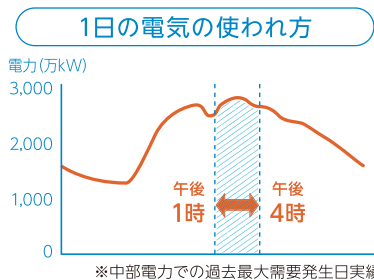
電力需要は、夏の平日の昼間にピークとなりますが、操業日の変更により土・日曜日の休みを平日に振り替えたり、勤務時間を変更していただくなど、多くのお客さまから節電にご協力をいただいています。

その結果、木・金曜日については、適正な予備力をもって供給可能な見通しを得ることができました。

しかしながら、供給面・需要面での様々な対策を講じて、月曜日から水曜日の午後1時から午後4時における電力需給は引き続き厳しい状況になると想定しています。お客さまには誠に迷惑をおかけいたしますが、節電にご協力をお願いいたします。

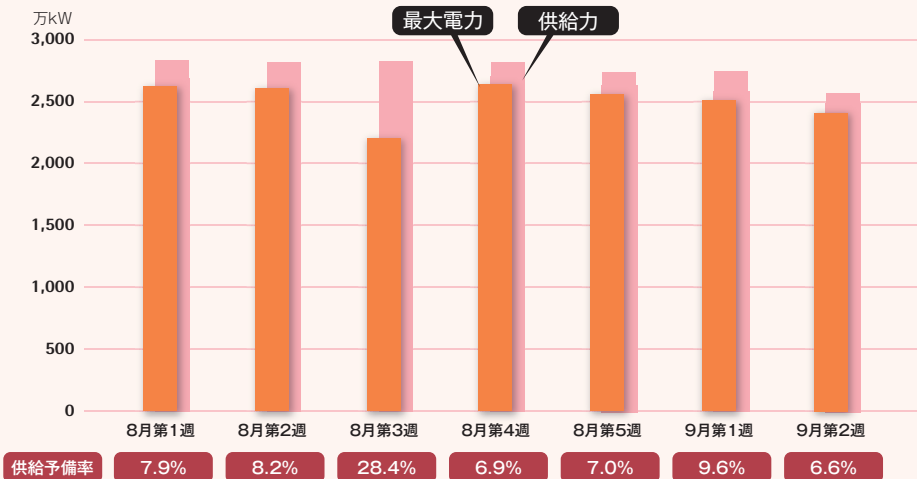
なお、中部電力ホームページにて日々の需給状況をお知らせしています（「中部電力でんき予報」9月30日まで）。

この夏、電力需要のピークは、月・火・水曜日の午後1時～午後4時です。無理のない範囲で、この時間の節電にご協力をお願いいたします。



中部電力でんき予報 ホームページ (www.chuden.co.jp) など で 電気の需給状況についてお知らせしています。

## ■週別の供給予備率



## ■中部電力グループでの節電の徹底

中部電力およびグループ会社の全事業場においては、下記の節電対策を徹底しています。

中部電力の事業場	中部電力およびグループ会社の全事業場
<p>○7月～9月の月曜日から水曜日の午後1時～午後4時に次の対策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶空調機器の運転停止</li> <li>▶全事業場を3グループに分け、各グループ上記時間帯のうち、1時間</li> <li>▶窓際消灯の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶冷房温度28度の徹底</li> <li>▶照明やエレベータ運転の間引き</li> <li>▶手洗い給湯停止</li> <li>▶夏季軽装の前倒し等を実施</li> </ul>

# 特集 - 2

皆さまにご安心いただくために

## 浜岡原子力発電所の津波対策

浜岡原子力発電所は、過去に大きな影響を及ぼした安政東海地震(1854年)や宝永地震(1707年)等による津波を踏まえ、津波に対する安全性を確認しています。また、本年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による福島第一原子力発電所の事故を踏まえた緊急安全対策を完了しています。

さらに当社では、社会の皆さまの原子力発電に対する不安の高まりを真摯に受け止め、浜岡原子力発電所の安全性をより一層高めることを目的とした津波対策を実施することとしました(7月22日公表)。ここではその内容についてご紹介します。

### 津波対策の考え方

原子力発電所の安全性を確保するためには、いわゆる「止める、冷やす、閉じ込める」が重要です。福島第一原子力発電所では、このうち、原子炉を「冷やす」ために重要な交流電源を全て失い(「全交流電源喪失」という。)、また、海水を利用して原子炉施設を冷却する機能を喪失したこと(「海水冷却機能喪失」という。)によって、いわゆる「冷やす」機能を失い、今回の重大な事故に至っています。

そこで今回策定した津波対策では、「浸水防止対策」として、①防波壁の設置等による発電所敷地内浸水防止対策を、次に、②敷地内浸水時における建屋内浸水防止対策を講ずることとしました。さらに、福島第一原子力発電所で発生した「全交流電源喪失」および「海水冷却機能喪失」を仮定した場合にも、確実かつ安全に冷温停止に導くことができるよう、多重化・多様化の観点から冷却機能を確保する対策とし、「緊急時対策の強化」を図ることとしました。

### 浸水防止対策

対策1 発電所敷地内浸水防止	防波壁の設置等による発電所敷地内への浸水防止
対策2 建屋内浸水防止	敷地内浸水時の海水冷却機能維持・建屋内浸水防止

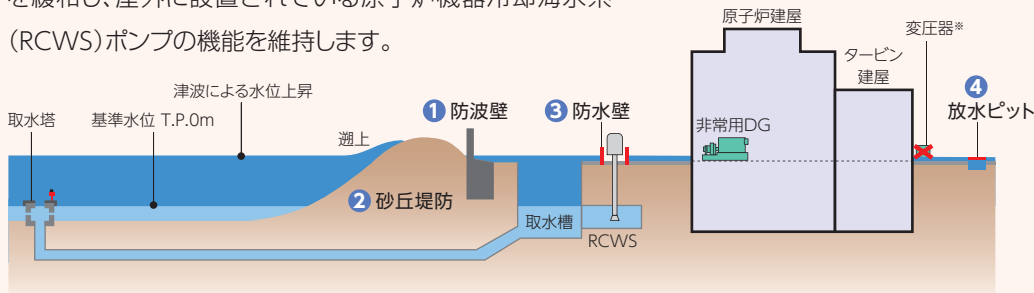
### 緊急時対策の強化

冷却機能確保	全交流電源・海水冷却機能喪失を仮定した冷却機能の確保
--------	----------------------------

### 津波対策の概要

#### 浸水防止対策1：発電所敷地内浸水防止

発電所敷地内への津波の浸入を防止するとともに、取水設備等からの発電所敷地内への溢水とこれによる影響を緩和し、屋外に設置されている原子炉機器冷却海水系(RCWS)ポンプの機能を維持します。



※屋外変圧器は敷地への浸水により、使用不可能となるものとし、外部電源が復旧したとしても屋外変圧器からの早期受電は期待しない。

T.P.: 東京湾平均海面のことであり、全国の標高の基準となる海面の高さ。

非常用DG: 非常用ディーゼル発電機

#### 浸水防止対策

- ① 発電所敷地海側への防波壁(天端高さ:T.P.+18m)の設置
- ② 発電所敷地前面の砂丘堤防および東側西側盛土の高上げ

#### 溢水対策

- ③ 海水取水ポンプエリアへの防水壁(高さ:1.5m)の設置
- ④ 放水ピット、放水路開口部の閉止



## ■防波壁の設置

浜岡原子力発電所では、東海・東南海・南海地震の3連動の地震を検討し、津波の遡上高さをT.P.+8m程度と想定しています。敷地前面にある砂丘堤防はT.P.+10~15mの高さがあり、地震後においてもこの高さはほぼ維持され、敷地内への津波の浸入を防ぐことができます。今回、この砂丘堤防の高さに福島第一原子力発電所に襲来した津波の遡上高(T.P.+15m程度)なども考慮し、T.P.+18mの防波

### 防波壁等の設置イメージ



壁を新たに設置することとしました。

この防波壁は、1~5号機の敷地に沿って建設し、総延長約1.6kmです。両端部は、T.P.+18~20mに嵩上げする盛土に接続することにより、敷地前面および側面からの津波の浸入を防ぎます。

なお、東北地方太平洋沖地震と同じ規模のマグニチュード9の津波モデルを仮想的に作成して試算したところ、津波

の遡上高はT.P.+10m程度との結果を得ています。

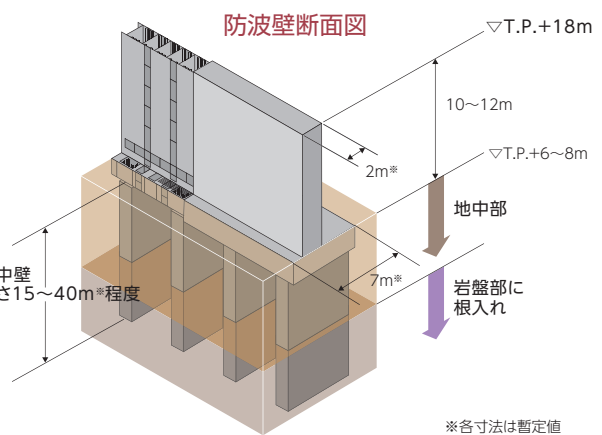
今後も、福島第一原子力発電所の事故調査や中央防災会議の検討等における新たな知見に対し、適切に必要な対策を講じていきます。

この防波壁は、鉄筋コンクリート造りの地中壁を地中の岩盤部まで十分に根入れする基礎構造とし、壁部は鋼材と鉄骨・鉄筋コンクリートの複合構造のL型よう壁とする計画であり、地震や津波に対し十分強い構造です。

### 防波壁イメージ



壁部は鋼材と鉄骨・鉄筋コンクリートの複合構造のL型よう壁とする計画であり、地震や津波に対し十分強い構造です。



※各寸法は暫定値

## ■海水取水ポンプエリアへの防水壁設置

津波発生に伴う海面上昇により、海とトンネルでつながっている取水槽等から海水が溢れ、屋外にある「海水取水ポンプ」が浸水することのないよう、その周囲に高さ1.5mの防水壁を設置します。

### 海水取水ポンプエリアへの防水壁設置イメージ



4号機



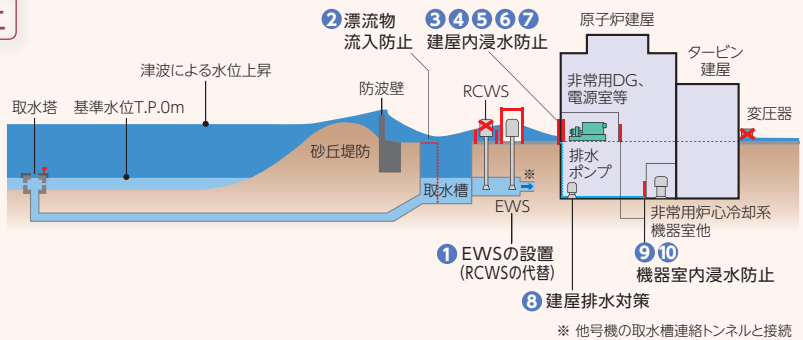
5号機

# 特集-2

## 皆さまにご安心いただくために 浜岡原子力発電所の津波対策

### 浸水防止対策2：建屋内浸水防止

仮に防波壁を越えし発電所敷地内に浸水が発生したとしても、屋外に設置されている原子炉機器冷却海水系(RCWS)ポンプの機能を代替し、かつ、建屋内に設置されている炉心および使用済燃料の冷却機能に係る安全上重要な機器(注水、除熱、電源)に影響を及ぼさないよう浸水防止を図ります。



#### 海水冷却機能の維持

① 緊急時海水取水設備(EWS)の設置

② 取水槽への漂流物流入防止対策

#### 建屋内浸水防止

③ 建屋外壁の防水構造扉の信頼性強化

④ 建屋外壁の給排気口(開口部)からの浸水防止対策

⑤ 建屋貫通部からの浸水防止

(シール性向上)対策

⑥ 地下配管ダクト点検口、入口扉等閉止

⑦ 建物構造強化

#### 機器室内浸水防止

⑧ 建屋排水対策の強化

(排水ポンプ設置)

⑨ 水密扉の追加設置、補強

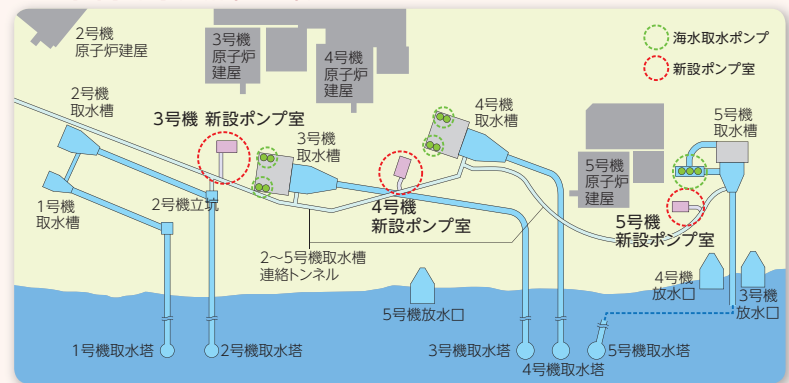
⑩ 機器室貫通部からの浸水防止(シール性向上)対策

### 緊急時海水取水設備の設置

浸水により、屋外にある海水取水ポンプが使えなくなった場合に備え、新たに「緊急時海水取水設備」を設置します。これは、屋外の海水取水ポンプの機能を代替するポンプを、防水構造の建屋内に設置するものです。

また、各号機の取水槽を結んでいる連絡トンネルを利用して、他号機の取水槽からも海水を取れるよう取水源を多重化します。

#### 緊急時海水取水設備(EWS)設置イメージ



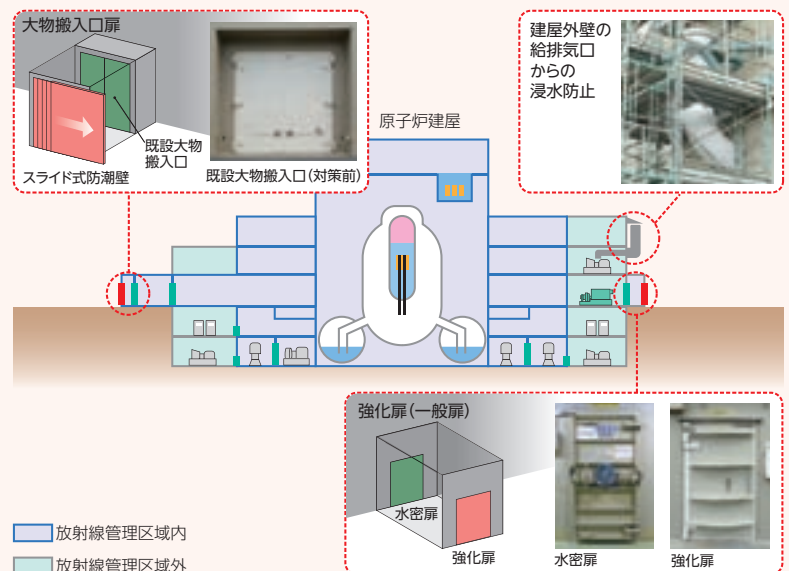
### 建屋内浸水防止

仮に敷地内が浸水しても、海水取水ポンプの電源となる非常用ディーゼル発電機等の「重要な機器」に影響が及ばないよう、原子炉建屋内への浸水を防ぎます。

具体的には、水密扉への取替や新たに強化扉を設置し扉の二重化を図るとともに、大物搬入口については、スライド式防潮壁を設置し津波に対する信頼性を高めます。

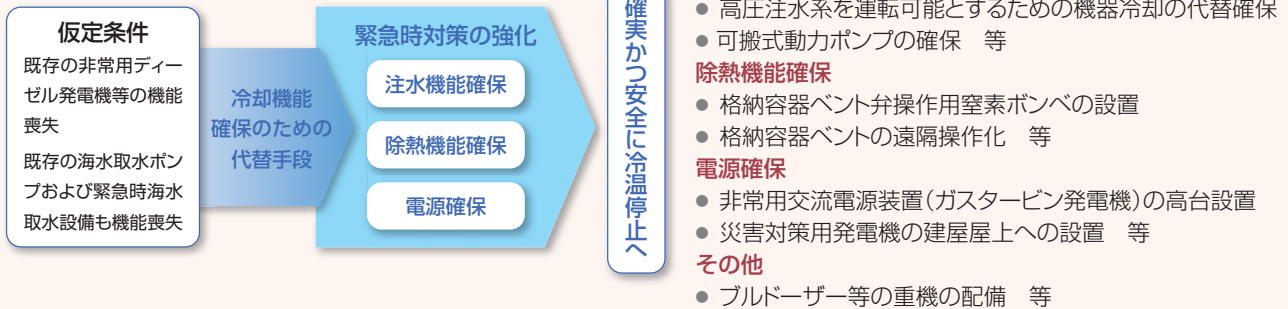
また、給排気口はシュノーケルタイプへ形状を変更します。

#### 建屋内浸水防止対策



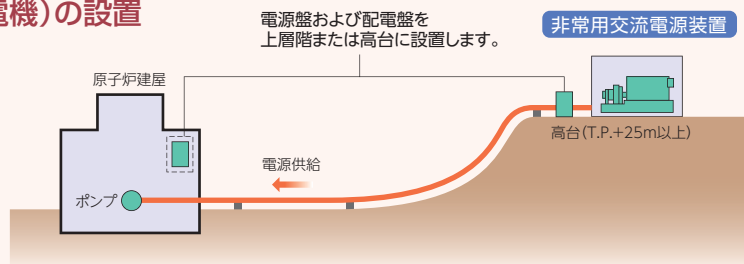
## 緊急時対策の強化：冷却機能確保

万一、福島第一原子力発電所で発生した「海水取水ポンプ」と、その電源である「非常用ディーゼル発電機」等の「重要な機器」が同時に機能を失うという、深刻な事態を仮定しても、「注水」「除熱」「電源」の機能に対し、複数の代替手段によって「冷やす機能」を確保し、原子炉を安定した高温停止状態に維持し、その後、確実かつ安全に冷温停止に導くものです。



## 非常用交流電源装置(ガスタービン発電機)の設置

外部電源および非常用ディーゼル発電機が使用できない状況に備え、津波の影響がない発電所敷地内高台に非常用交流電源装置を設置し、炉心冷却システムの設備にすみやかに電源を供給します。



## 注水手段の多様化

全交流電源喪失時や海水冷却機能喪失時においても、「高圧注水系(原子炉に高い圧力で注水する設備)」を運転できるようにするため、高圧注水系のポンプを冷却するための空冷式熱交換器を新たに設置するとともに、非常用交流電源装置から受電できるようにします。

また、注水のための水源を確保することを目的に、水タンクを増設したり、発電所に隣接する新野川から直接取水する方策を整えるなど、水源の多様化を図ります。

当社といたしましては、これらの津波対策を2012年12月に完了することを目標に実施し、浜岡原子力発電所の安全性を一層向上させるとともに、丁寧にご説明することで、地元をはじめ社会の皆さまの安心につながるよう、全力で取り組んでまいります。

また、福島第一原子力発電所の事故の知見を踏まえ、地震・津波と原子力災害の同時発生を想定し、グループ会社を含めた防災体制の見直し・強化に取り組んでまいります。自治体等が行う災害時の住民への対応については、自治体等と連携を密にして適切に実施するとともに、知見の提供等の協力を積極的に行ってまいります。

## Voice on Site



中部電力  
執行役員  
浜岡原子力発電所長  
梶川 祐亮

## 世界一安全な発電所を目指して取り組んでまいります

世界一安全な発電所を目指し、一日も早く津波対策の強化工事を完了できるように、所員が一丸となって取り組んでまいります。また、地元をはじめとする皆さまに一層のご安心をいただけるよう、対策の進捗状況について、丁寧にご説明してまいります。

# 特集-3

## 中部電力グループ 経営ビジョン 2030

2011年2月、中部電力グループは、創立60周年という節目を迎えるにあたり、あらためて事業の原点を見据えつつ未来を展望し、時代を超えて大切にしたい思いを「中部電力グループ企業理念」として掲げるとともに、その理念のもとに「中部電力グループ 経営ビジョン2030」を策定しました。

### 中部電力グループ 企業理念

中部電力グループは、  
くらしに欠かせないエネルギーをお届けし、社会の発展に貢献します。

#### 誠意と努力

誠意をもって努力を積み重ね、変わらぬ使命を果たし、お客さまや社会からの信頼に応えます。

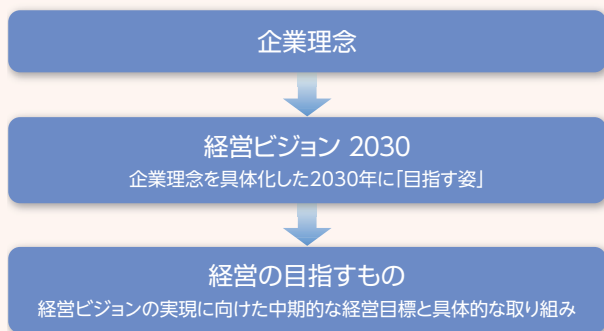
#### 創意と挑戦

創意をもって新たな挑戦を続け、つねに優れたサービスを追求し、お客さまや社会からの期待に応えます。

#### 自律と協働

一人ひとりが互いを尊重しながら個性を発揮し、協働することで、のびやかで力強い企業文化を築きます。

#### ■企業理念の実践に向けて



企業理念や経営ビジョンなどの策定に向け、さまざまな階層において意見交換会を実施

#### コーポレートスローガン

## 時代の先へ。ひとりのそばへ。

時代が大きく変わるなか、一歩先を見据えて新たな時代に挑戦していくとともに、お客さま一人ひとりのくらしを細やかに見つけ、信頼と期待に応えるエネルギーサービスをお届けし続けていくという思いを込めて、新たなコーポレートスローガンを策定しました。



## 中部電力グループ 経営ビジョン2030

中部電力グループは、経営環境が急速に変化し、将来を予測することが難しくなっている現状を踏まえ、「お客さまや社会からの信頼に応えるために何を大切にすべきか、期待に応えるために何を变えるべきか」を検討し、「目指す姿」を定めるとともに、それらを実現するために、4つのミッションを掲げました。

### 「目指す姿」

#### エネルギーに関するあらゆるニーズにお応えし、成長し続ける企業グループ

- 「エネルギーに関するあらゆるニーズにお応えする」ことを基本として、お客さまとともに最適なエネルギー利用を追求することで、お客さまに選んでいただける「エネルギーサービスNo.1企業グループ」を目指します。
- 持続的な成長を確かなものとするため、これまで国内電気事業で培ってきた経営資源・ノウハウを活用し、海外での事業展開などに挑戦することで、新たな企業価値を創出していきます。

### ■「目指す姿」実現に向けた4つのミッション

#### Mission 1

#### 低炭素で良質なエネルギーの安価で安定的なお届け

私たちは、いつの時代においても、お客さまの生活・産業に不可欠である良質なエネルギーを安価で安定的にお届けすることで、地域・社会の発展に貢献していくとともに、低炭素社会の実現に取り組みます。

#### Mission 2

#### 「エネルギーサービスNo.1企業グループ」の実現

私たちは、お客さまとともに最適なエネルギー利用を追求することで、「エネルギーサービスNo.1企業グループ」を目指します。

#### Mission 3

#### 積極的な海外展開による収益の拡大

私たちは、将来にわたる持続的な成長を確かなものとするために、経営資源を最大限に活用して海外での事業展開を進め、収益の拡大を目指します。また、海外事業を通じて技術力やブランド力などの向上を図ることにより経営基盤を強化し、国内のエネルギーサービスをさらに充実させます。

#### Mission 4

#### 成長を実現する事業基盤の確立

私たちは、お客さまや社会からの信頼と期待に応えるため、これまで以上に「社会的責任の完遂」に向け努力するとともに、すべての事業活動の礎となる「人財\*・組織」、「グループ総合力」、「技術研究開発」についても、より一層充実させます。

※人財:従業員は会社にとってかけがえのない財産であるため、「人材」を「人財」と表記しています。

### Voice on Site



中部電力  
経営戦略本部 事業戦略グループ  
(現 土木建築部 原子力土建グループ)  
内野 大介

#### 30回以上にわたる 意見交換会を重ねて策定

「中部電力グループ企業理念」と「経営ビジョン2030」は、2010年4月から経営層をはじめとするさまざまな階層において、30回以上にわたる意見交換会を重ねて策定しました。私は、皆さまからいただいた意見を取りまとめ、中部電力

グループの存在意義を見つめ直して企業理念として形にするとともに、2030年に「目指す姿」を描くことで将来に向けた経営の方向性を定める業務に携わりました。

今後は私たち一人ひとりが、企業理念に基づいて日々の仕事に取り組んでいくことが重要になりますので、解説冊子を配付するとともに理解・浸透を図る施策についても検討を行っています。



# 特集-4

## 低炭素社会の実現に向けて 再生可能エネルギー発電の推進

中部電力グループは、低炭素社会の実現に向けた取り組みとして、再生可能エネルギー発電の導入を進めています。

また、太陽光発電や風力発電などからの余剰電力の購入を通じた再生可能エネルギーの普及促進にも努めています。



青山高原ウインドファーム

徳山水力発電所  
岐阜県揖斐郡揖斐川町

メガソーラーいいだ  
長野県飯田市



メガソーラーいいだ

易老沢水力発電所  
未利用落差発電  
長野県飯田市

東河内水力発電所  
維持流量発電  
静岡県静岡市葵区

ウインドパーク笠取  
(株)シーテック  
三重県津市・伊賀市

メガソーラーたけとよ  
愛知県知多郡武豊町

メガソーラーしみず  
静岡県静岡市清水区

ウインドパーク美里  
(株)シーテック  
三重県津市美里町

碧南火力発電所  
●木質バイオマス燃料混焼  
●下水汚泥燃料混焼  
愛知県碧南市

御前崎風力発電所  
静岡県御前崎市

青山高原ウインドファーム  
●80,000kW(2,000kW×40基)増設  
(株)青山高原ウインドファーム  
三重県津市・伊賀市

■ 運転中  
■ 建設中・計画



木質バイオマス燃料混焼設備(碧南火力発電所)

### メガソーラー発電

中部電力は、2020年度までに1.5~2万kWのメガソーラー発電の導入を目指しています。

2011年1月には、当社にとって初めての事業用メガソーラーとなる「メガソーラーいいだ」の営業運転を開始いたしました。

また、「メガソーラーたけとよ」および「メガソーラーしみず」の2地点についても、開発を進めています。

太陽光発電設備	出力	運転開始	CO <sub>2</sub> 排出削減効果
メガソーラーいいだ (長野県飯田市)	1,000kW	2011年1月	約400t/年
メガソーラーたけとよ (愛知県知多郡武豊町)	7,500kW	2011年10月 (予定)	約3,400t/年
メガソーラーしみず (静岡県静岡市清水区)	8,000kW	2014年度 (予定)	約4,000t/年

### From the Partner

#### 公民協働で エネルギーの グリーン化を推進



飯田市 水道環境部長  
澤柳 孝彦 様

「環境モデル都市」である飯田市は、市民や地元企業との協働により地元産エネルギーである太陽光や木質バイオマスの利用を進めてきました。

太陽光発電に関しては、これまでも「太陽光市民共同発電」や「おひさま0円システム」などに取り組んでまいりましたが、このたび、より大規模な取り組みとして、中部電力様と共同で「メガソーラーいいだ」を設置いたしました。

これにより、市民の電力利用のグリーン化を進めるとともに、太陽光が電力となって活かされる姿を市民に示すことができたと考えています。

中部電力様には、電力の安定供給に加え、再生可能エネルギーの導入についても積極的に進めていただきたいと思います。

## 風力発電

中部電力の御前崎風力発電所は、2011年1月に第2期の8基が完工し、計11基(22,000kW)が営業運転しています。また、グループ会社でも積極的に風力発電事業に取り組んでおり、(株)シーテックと(株)青山高原ウインドファームによって、計47基(69,000kW)が営業運転しています。さらに、(株)青山高原ウインドファームでは40基(80,000kW)の増設に向けた準備を進めています。

風力発電設備		出力	運転開始
中部電力	御前崎風力発電所	22,000kW (2,000kW×11基)	(1期)2010年2月 (2期)2011年1月
シーテック	ウインドパーク美里	16,000kW (2,000kW×8基)	2006年2月
	ウインドパーク笠取	38,000kW (2,000kW×19基)	(1期)2010年2月 (2期)2010年12月
青山高原ウインドファーム	既設	15,000kW (750kW×20基)	2003年3月
	増設	80,000kW (2,000kW×40基)	2016年度(予定)

## 水力発電

中部電力は、183カ所、521.9万kWの水力発電所を保有し、水資源の有効活用を図っています。

2010年9月には、砂防えん堤の未利用落差を利用した須砂渡水力発電所(240kW)を運転開始しました。

また、2014年度の運転開始を目指し、徳山水力発電所(15.34万kW)の開発を進めています。

### Topics

#### 長良川水力発電所が運転開始100周年

1910年(明治43年)に営業運転を開始した長良川水力発電所(4,800kW 美濃市立花)は、2010年に100周年を迎えました。その間、伊勢湾台風の浸水被害に対する復旧や、老朽化に伴う改修などを経て、今も地域へ安定的に電気を送り続けています。

また、同発電所は、2000年・2001年には明治時代の面影を残す赤レンガ造りの建物などが文化庁の「登録有形文化財」に登録され、2007年には経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されました。



大いかだによる発電機の運搬(建設時)



現在の本館

## バイオマス発電

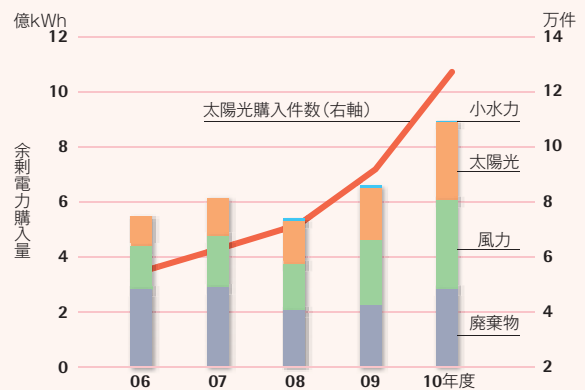
中部電力は、石炭を燃料とする碧南火力発電所において、2010年9月から木質バイオマス燃料の混焼を行っています。発電燃料の約3%を木質バイオマス燃料で賄い、石炭の使用量を抑制することにより、年間20~30万tのCO<sub>2</sub>排出削減効果を見込んでいます。

また、メタウォーター(株)様と共同参画している衣浦東部浄化センターにおける下水汚泥燃料化事業も2012年度からの運用開始を予定しています。

## 余剰電力の購入

太陽光発電や風力発電などからの余剰電力購入を通じ、再生可能エネルギーの普及促進に取り組んでいます。

2009年11月には国民全員参加による低炭素社会の実現を目的に「太陽光発電の余剰電力買取制度」が導入され、電力会社は太陽光発電からの余剰電力を国が示した単価により購入しています。



## 低炭素社会の実現に向けた研究

中部電力は、国の「次世代エネルギー・社会システム実証地域」に選定された豊田市において、トヨタ自動車(株)様などとともに家庭内やコミュニティにおけるエネルギーの有効活用などの実証実験を行っています。

このほかにも、新型電力量計による遠隔検針等の実地試験を開始するなど、低炭素社会の実現に向けてさまざまな研究に取り組んでいます。

## コンプライアンス違反と再発防止に向けて

# あずり 阿摺水力発電所における 無許可工事などの概要と対応

中部電力は、阿摺水力発電所(4,800kW 豊田市大河原町銚子)において実施した配管撤去工事について、本来必要な監督官庁への事前相談を行わないまま工事を実施したことに気がつきましたが、監督官庁に対して当該工事実施の報告をせずに、撤去した配管類を元に戻す復旧工事を実施していました。

また、復旧工事の実施にあたっては、架空件名を立て、不適切な方法により工事費用を捻出していました。

このような事態を発生させたことにつきまして、お客さまをはじめ、中部電力を信頼し、支援して下さる皆さまに心より深くお詫び申し上げます。

中部電力は、再発防止策を徹底したうえで、従業員一人ひとりがお客さまから安心、信頼していただける事業活動に全力をあげて取り組んでいきます。

ここでは、本件の概要と再発防止の取り組みについてご報告いたします。

## 匿名の通報による発覚

2010年6月、豊橋河川事務所に「阿摺水力発電所において冷却水配管類の工事が申請手続きをせず実施された」との匿名の通報が入り、同事務所から、確認の問い合わせを受けたことにより本件が判明いたしました。

## 阿摺水力発電所 無許可工事などの概要

### ■事前相談なしでの工事実施

水力発電施設で工事を実施する場合は、工事に係る河川法の申請の要否について、河川事務所に事前相談を行うことになっています。

2008年6月、当社は、阿摺水力発電所の2号水車軸受の改修工事(水車軸受の取替と、それに付随して不要となる冷却水配管類の撤去)にあたり、豊橋河川事務所に対し、河川法に基づく申請手続き要否について事前相談を行いました。

当時、担当部門においては、主たる軸受の取替工事の事前相談を行えば、それに付随する冷却水配管類の撤去工事についての事前相談は不要であると誤って認識していました。

そのため、付随する冷却水配管類の撤去工事について事前説明を行わなかった結果、河川事務所からは申請手続きは不要と判断されました。

### ■架空件名による工事費用の捻出と隠ぺい工事

本改修工事は、2008年10月に開始し2009年3月に完工しましたが、2009年9月、別の水力発電所改修工事における申請手続き不備事象の対応※の中で、河川事務所から「河川水が流れる配管類の改築には事前相談が必要である」という指摘を受け、冷却水配管類の撤去工事について河川事務所に事前相談していないことに気がきました。

ところが、当社は、新たに発覚した無許可工事(冷却水配管類の撤去工事)について河川事務所に報告・相談せずに、事実を隠したまま架空の件名を立てて工事費用を捻出し、配管類を元の状態に戻す復旧工事を行いました(2009年10月着工、11月完工)。

※申請手続き不備事象の対応:真弓水力発電所(豊田市川手町シタシロ)の入口弁(水車へ水を送る設備)取替工事において、操作方法の仕様変更(水圧式→油圧式)に伴い操作用水が不要となることに関し、河川法の申請の要否についての事前相談を行わないまま工事を実施していたことが判明した。

本件に対し、当社は、豊橋河川事務所より受領した再発防止に向けた指示書に基づき、是正計画をとりまとめて提出した。

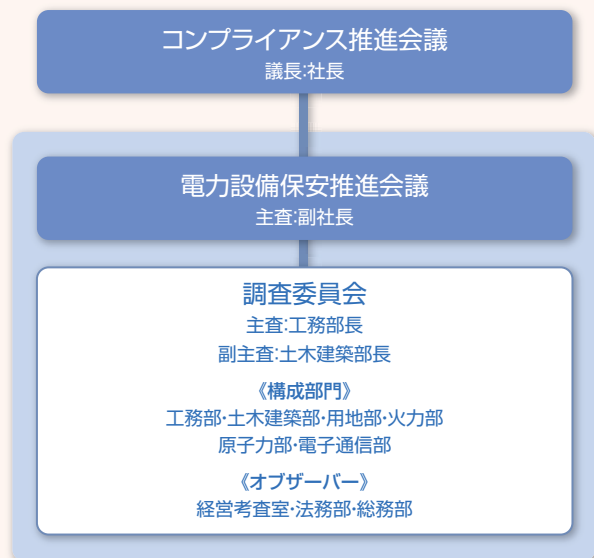
### 類似事象の調査結果

2010年1月、越戸水力発電所(9,200kW 豊田市平戸橋町字岩波)で実施した発電機冷却水配管へのドレン配管追加工事について、豊橋河川事務所へ事前相談を行っていましたが、未実施であると誤って認識していたことから、阿摺水力発電所の事案にならって、当該工事実施の報告および所定の事前相談を行わないまま復旧工事(配管の撤去)を実施した事象がありました。

## 再発防止策の策定と展開

本件発覚後、「コンプライアンス推進会議」の下部機関である「電力設備保安推進会議」に調査委員会を設け、無許可工事などの経緯とその原因の詳細調査および他の類似する不適切な取り扱いの有無についての調査ならびに再発防止策の策定と実施を行いました。

## 調査委員会の体制図



## 再発防止策の策定と実施

業務実施方法の改善や河川法教育の充実など、下記の対策を着実に実施することといたしました。

- 工事説明資料の改善
- 関係部署間の連携強化
- 水利使用規則※の教育強化
- 水利使用規則改正時の周知方法の見直し

これらの対策の有効性については、「電力設備保安推進会議」で検証しており、今後も継続して、これらの対策に取り組んでいきます。

※水利使用規則:水利使用に係る許可内容・許可条件等を付した規則。

## 職場での意識向上

本件が発生した原因には、コンプライアンスに対する一人ひとりの意識の甘さ、管理職の意識の欠如、疑念の声を活かせない職場風土があげられます。

このため、当社は本件を受けて、トップメッセージの発信、全従業員を対象としたディスカッション用教材(冊子)の作成と各職場でのディスカッション活動の展開、階層別教育を実施しました。

今回のこのような事象が二度と繰り返されることのないよう、社外の弁護士などもメンバーとなっている「コンプライアンス推進会議」のもと、行動チェックポイント「4つの問いかけ」に基づき、個人の意識向上、組織風土の改善、組織体質の改善を図り、信頼を損なうような誤った判断・行為の撲滅を目指し、再発防止策のさらなる改善を図っていきます。

### 行動チェックポイント「4つの問いかけ」

コンプライアンスに則った判断・行動を行うためのポイントを端的かつ明確に示しています。

各自がコンプライアンスの判断に迷った場合にセルフチェックすることができます。

- あなたの行動は、自分の良心に従っていますか?
- あなたの行動は、社会の良識にかなっていますか?
- あなたは、周囲のコンプライアンス違反に目をつぶっていませんか?
- あなたの行動は、周りの人に堂々と話せますか?

## その他のコンプライアンス違反事例

### 計量器の検定有効期間満了時における不適切な業務処理について

2011年1月に、長野支店松本営業所において、2004年3月から2006年12月までの間、高圧で受電している一部のお客さまの電気の使用量を計測するための計量器を、「計量法」で定められた検定有効期限を超過したまま使用していた不適切な業務処理が67件あったことが判明しました。(期限超過期間:最大で6年10カ月)

計量器の取替工事にあたり、停電交渉・工事調整を行って行く中で、停電のご了解がいただけなかったお客さまについて、実際の取替工事を行っていないにもかかわらず、検定有効期間内に計量器取替を実施したこととしてシステム処理のみを行って

いたものです。

すでに、該当計量器が設置されているお客さまには、事情をご説明し、検定有効期限を超過していた期間の電気の使用量の協議ならびに計量器の取替作業を完了しています。

さらに、全社の類似事象の調査を実施した結果、その他に検定有効期限を超過した計量器はないことを確認しています。

今後、このような事象が二度と発生しないよう、従業員の教育を再徹底するとともに、計量取替工事における停電交渉ルールの明確化などの再発防止策を展開していきます。



低炭素で良質なエネルギーをお届けするために

安定供給を目指して

発電部門の取り組み

安定運転を目指して

発電部門では、お客さまに安定した電気をお届けするために、24時間体制で発電所やダムなどの監視・制御を行っています。

発電設備の健全性確保

発電所を常に健全な状態に保つために、日頃から設備の巡視・点検や補修を確実に実施し、トラブルの未然防止に万全を期しています。

流通(送電・変電)部門の取り組み

万全な流通設備の建設・改修

発電所で作った電気は、送電線や変電所を介してお客さまへ届けられます。これらの流通設備は、発電所建設や需要増加に適切に対応して建設を行っています。

また、高経年設備の改修に伴う工事量の増加に対しても将来を見据えた工事量の平準化ならびに年間の工事量均平化に取り組み、計画的に改修を進めています。

万全な運用・保守

変動する需要に合わせて電圧や周波数の変動が少ない高品質な電気を安定的にお届けするため、中央給電指令所および給電制御所は、24時間体制で発電電力量を調整するとともに、電気の流れを監視・コントロールしています。

流通設備の保守については、設備の異常を早期に見出すための巡視・点検を定期的に行っています。

配電部門の取り組み

停電を起こさないために

送電線や変電所を通ってきた電気は、配電線を通してご家庭や工場などへ届けられます。配電線は、お客さまの身近な所に数多く施設されていますが、1カ所の故障でも広範囲の停電につながるため、設備の維持・管理には万全を期しています。

防災の取り組み

大規模地震への備え

中部電力の供給エリア内では、東海地震や東南海・南海地震といった大規模地震の発生が危惧されていますが、こうした大規模地震に備え、設備の耐震対策を進めるとともに、震度5弱以上の地震が発生した場合には、自動的に非常体制が発令される体制を構築するなど、対応の強化に努めています。

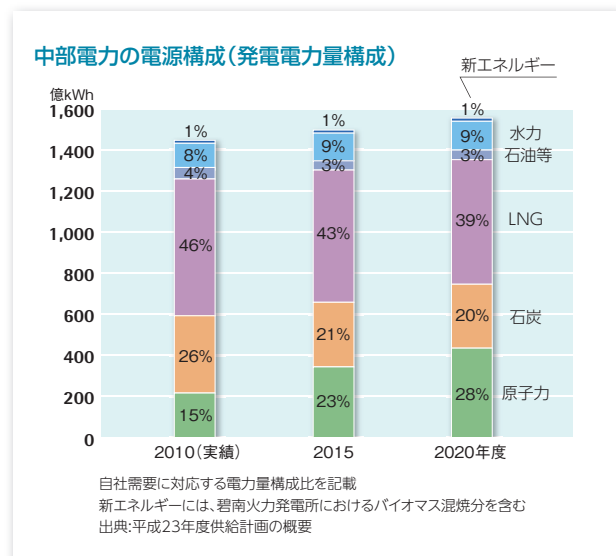
さらに、今後発生率が高いと危惧されている東海地震に対しては、「東海地震注意・予知情報」・「警戒宣言」が発令された段階で、全社に地震警戒体制を発令し、地震災害警戒本部を設置のうえ、発電所などの設備の特別巡視や特別点検を実施するなど万全を期すこととしています。

現在、東日本大震災で得た新たな知見を適切に取り入れながら、グループ会社および取引先と一体となり、事業継続計画に必要な体制の強化に努めています。

電源のベストミックスの推進

電源のベストミックス

中部電力では、供給安定性、環境性、経済性を総合的に検討し、原子力・火力・水力などそれぞれの特徴を持つ発電方式をバランスよく組み合わせる「電源のベストミックス」に引き続き取り組んでいきます。





## 火力発電の熱効率※向上

火力発電は、電力需要の変動に柔軟に対応することが可能であり、電力の安定供給には欠かせない電源です。

火力発電の熱効率向上は、発電用燃料の使用量、CO<sub>2</sub>排出量などの削減につながります。中部電力では、高効率コンバインドサイクル発電※の導入、高効率火力発電プラントの効果的な運用などにより、熱効率の維持・向上に努めるとともに、日常の細やかな運転管理などにより経済性向上や低炭素化を進めています。

※**熱効率**:投入した燃料の熱エネルギーのうち、実際に電気となった割合を示すもの。

※**コンバインドサイクル発電**:ガスタービン発電と蒸気タービン発電を組み合わせた発電方式。

## 発電効率の優れた コンバインドサイクル発電の導入

### 上越火力発電所の建設

2012年度から2014年度にかけて順次運転を開始する予定の上越火力発電所(新潟県上越市)では、高効率コンバインドサイクル発電設備を採用し、燃料使用量とCO<sub>2</sub>排出量のさらなる抑制を図っています。

### 西名古屋火力発電所7号系列リフレッシュ計画

西名古屋火力発電所(愛知県海部郡飛島村)では、1970年の運転開始から約40年を経過した設備を高効率発電設備に更新する計画を進めています(2019年度運転開始予定)。

## Voice on Site

### 上越火力発電所の運転開始に向けて

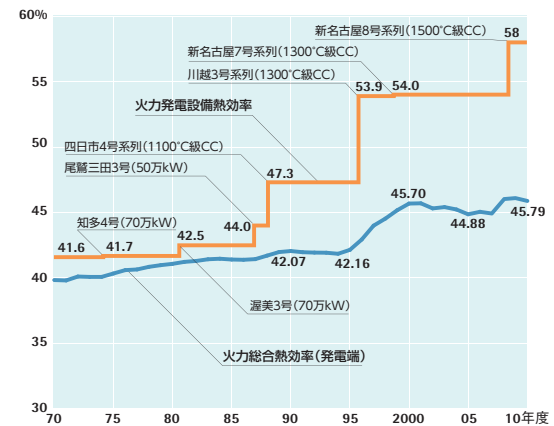
私は上越火力発電所の建設において、安全・工程・品質を確保しつつ、機械工事を進めています。

今後は運転開始に向けて、各設備の試運転を実施して性能の検証・改善を行い、確実に良質な電気をお届けしていきたいと考えています。



中部電力  
上越火力建設事務所  
最上 克哉

火力発電設備熱効率、火力総合熱効率の推移(低位発熱量基準)



(注) ( )のCCはコンバインドサイクルの略

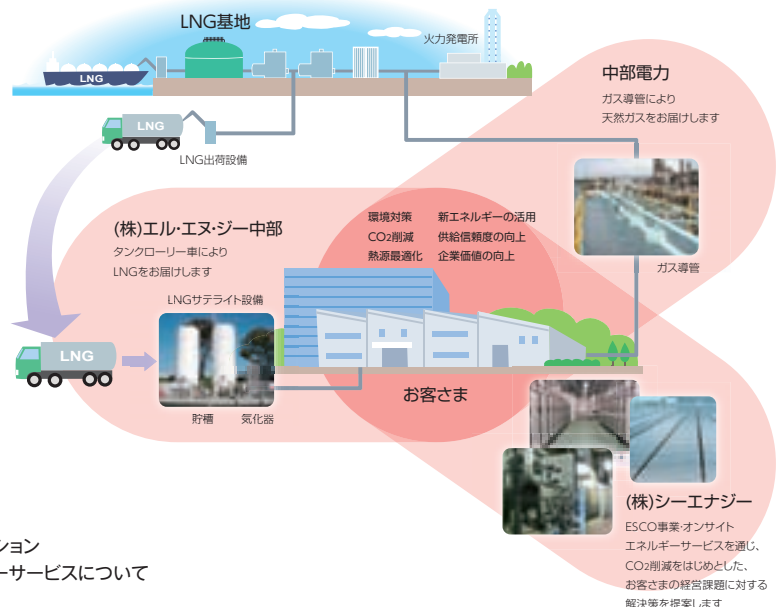
## 「エネルギーサービスNo.1企業グループ」の実現

PDF/e-BOOK P22

環境意識の高まりなどを背景に、重油から天然ガスに燃料を転換する動きが進んでいます。

中部電力では、ビジネス向けにガス・LNGやオンサイトエネルギーなどを組み合わせた最適なエネルギーサービスをグループ体となって提供し、お客さまの省エネ・省CO<sub>2</sub>やコスト削減の実現をサポートしています。

2010年度のガス・LNG販売数量は約65万トンまで拡大しました。引き続き、お客さまのニーズに的確にお応えすることで、ガス・LNG販売事業の拡大を図っていきます。

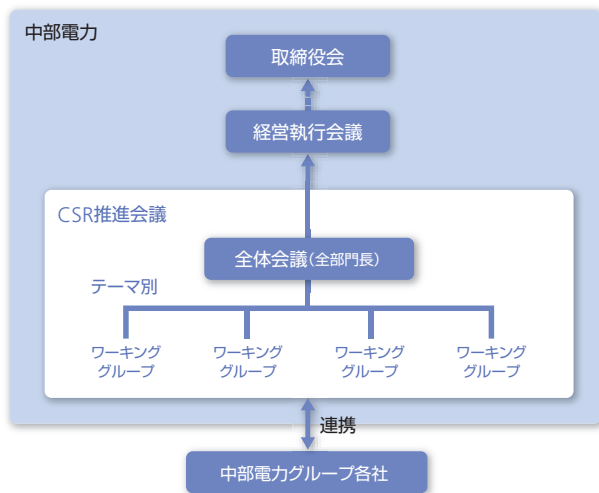


HP >ビジネスサポート>電力以外のサービス・ソリューション  
>LNG・ガス販売およびESCO・オンサイトエネルギーサービスについて

CSRの推進

中部電力では、CSRの取り組みを推進する部署として経営戦略本部に「CSR・業務改革推進グループ」を設置するとともに、CSRに関わる重要事項については、全部門長をメンバーとする「CSR推進会議」において審議し、CSRの改善活動に取り組んでいます。

CSR推進体制



CSR推進の取り組み

各事業場が独自の方法によってCSRの推進を図っています。

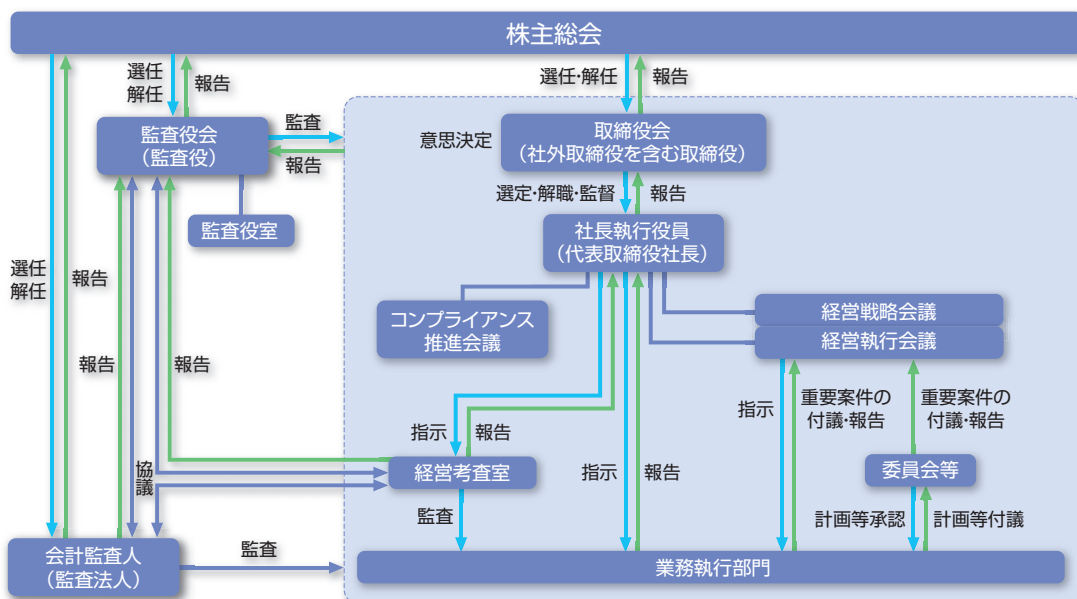
一宮営業所の事例

名古屋支店一宮営業所では、毎月行われている職場懇談会において、所長と所員がCSR報告書などを活用した意見交換を行っています。この機会を通じて、所員一人ひとりの担当業務の確実な遂行がCSRそのものであり、その積み重ねが地域の皆さまからの信頼を得る基盤であるという認識を共有しました。また、他の事業場での取り組みを知ることにより、中部電力グループの公益性の高さを再確認しました。このような取り組みを通じ、所員は、さらに自分の行動に自信と責任を持ち、お客さまとのコミュニケーションを図っています。

コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの皆さまから選択され信頼される企業であり続けるため、公正・透明性を経営の中心に据え、コーポレート・ガバナンスの一層の充実に努めます。

中部電力のコーポレート・ガバナンス体制(模式図)



## 内部統制

中部電力は、内部統制システムの整備に関する基本的な考え方として「会社の業務の適正を確保するための体制」を定め、この体制に掲げる内部統制システムを整備し、運用しています。

### 会社の業務の適正を確保するための体制

#### 概要の抜粋

公正・透明性を経営の中心に据え、次の体制を有効に機能させ、株主、お客さまをはじめとするステークホルダーから信頼される企業となるように努める。

- 1 経営管理に関する体制
- 2 リスク管理に関する体制
- 3 コンプライアンスに関する体制
- 4 監査に関する体制
- 5 中部電力グループの業務の適正を確保するための体制

## 情報セキュリティ

経営に必要不可欠なインフラとなった「IT(情報処理)」の中部電力グループ全体での最適な推進を目的として、中部電力グループ・グループIT推進協議会を設置(2011年1月)し、「情報セキュリティ対策」の取り組みのベースとなる「情報セキュリティ共同声明」を定めています(2011年4月)。

### 情報セキュリティ共同声明(抜粋)

#### 法令の遵守

関連法令、各社の事業において必要な関連法令の遵守

#### 情報の管理・保護

保有する情報の適切な管理、技術面・運用面でのセキュリティ対策の構築

#### 体制の確立

グループ一体となった情報管理体制の確立

#### 教育の実施

役員・従業員等への教育の実施による継続的な意識向上

## コンプライアンス

PDF/e-BOOK P28

中部電力グループは、グループ一丸となってコンプライアンス(法令・社内ルール・企業倫理の遵守)を推進しています。

### 中部電力グループコンプライアンス基本方針

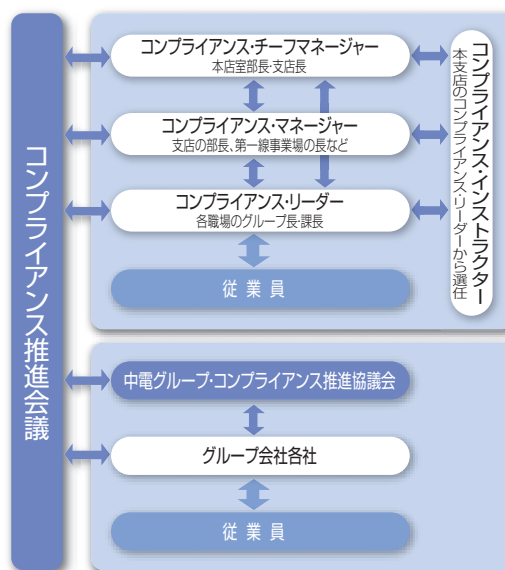
中部電力グループCSR宣言に基づき、コンプライアンスに関する基本方針を以下のとおり定める。

企業の存続・発展は、お客さま・地域・株主をはじめとする社会の信頼を最大の基盤としています。中部電力グループは、「コンプライアンスなくして信頼なし 信頼なくして発展なし」を旨に、コンプライアンスに則って行動する企業風土を醸成し、社会からの高い信頼と支持を得る「良き企業市民」を目指します。その実現に向け、次に掲げる原則に則り行動します。

- **コンプライアンスの徹底**  
法令・社内ルール・企業倫理を遵守します
- **公正・誠実な企業活動**  
お客さま、取引先、地域の皆様には、公正・誠実に対応します
- **適正な情報管理・公開**  
情報の取り扱いには厳正に、情報公開はタイムリーに行います
- **健全な企業風土の確立**  
人権を尊重し、健全な企業風土をつくります
- **政治・行政等との健全な関係の保持**  
事業活動の適正さに疑いを招くような行動は厳に慎みます
- **資産の適正管理・活用**  
会社の資産は適正に管理し、目的に従って使用します
- **環境の保全**  
地球環境の保全に努めます
- **安全・衛生、保安の確保**  
労働安全・衛生、および保安の確保・維持に努めます

中部電力では、社長を議長とする「コンプライアンス推進会議」のもと、全社的なコンプライアンス推進体制を構築しています。各部門や事業場では、各組織の長が推進方針を明示し、それぞれ自主的な活動を展開しています。

#### コンプライアンスの推進体制



### 中部電力グループ環境基本方針

中部電力グループCSR宣言に基づき、環境保全に関する基本方針を以下のように定める。

中部電力グループは、エネルギー産業に携わるものとして、環境経営を的確に実践するとともに、社員一人ひとりが自ら律して行動し、地球環境の保全に努め、持続可能な社会の発展に貢献します。

#### 1 低炭素社会の実現をめざします

- ゼロ・エミッション電源である原子力発電、再生可能エネルギーの利用を推進します
- 資源・エネルギーの効率的な利用を推進します

#### 2 自然との共生に努めます

- 多様な生物の生態系に配慮し事業活動を行います

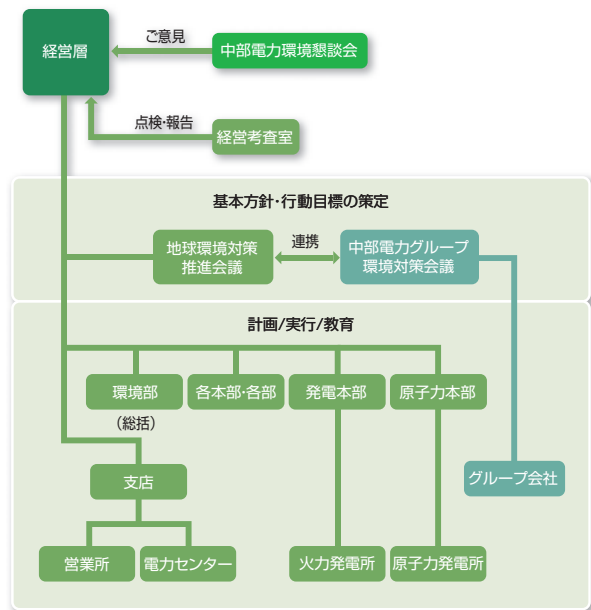
#### 3 循環型社会の実現をめざします

- 3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進し環境への負荷を低減します

#### 4 地域や世界との連携を強化します

- 環境に配慮した行動が自発的にできる人材を育成し、社会に貢献します
- 環境とエネルギーに関するコミュニケーションを深め、環境意識の向上に努めます

### 地球環境対策の推進体制



### 地球環境対策推進会議

環境・立地本部長を委員長、各部門の長を委員とし、地球環境保全に関する基本方針や行動目標、具体的な施策の審議・調整などを実施しています。

### 中部電力環境懇談会

環境問題に精通した有識者から環境・立地本部長が助言・提言をいただく場として設置・運営しています。

### 地球温暖化対策の推進

地球温暖化防止に向けCO<sub>2</sub>排出量を削減する三本柱は、原子力、再生可能エネルギー、そして省エネルギーです。中部電力は、エネルギー産業に携わるものとして、電力の供給面・需要面から、以下の取り組みを積極的に推進しています。

#### 供給面:CO<sub>2</sub>排出量の少ないエネルギーの利用

- 原子力発電の推進
- 再生可能エネルギー発電の導入促進
- 火力発電の熱効率向上
- 途上国におけるCO<sub>2</sub>削減プロジェクトへの参画

#### 需要面:省エネルギー

- 省エネルギーに対する意識啓発(エコライフの提唱)
- 効率的にエネルギーを利用するための提案、技術開発

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

2010年度のCO<sub>2</sub>排出原単位(1kWh当たりのCO<sub>2</sub>排出量)は、駿河湾の地震による浜岡原子力発電所の停止の影響があったものの、京都メカニズムクレジットの反映などにより0.341kg-CO<sub>2</sub>/kWh(実排出原単位0.473kg-CO<sub>2</sub>/kWh)となり、1990年度に比べ26.6%低減しました。CO<sub>2</sub>排出量は、4,462万t(実排出量6,194万t)となりました。

中部電力は、京都議定書の第1約束期間(2008~2012

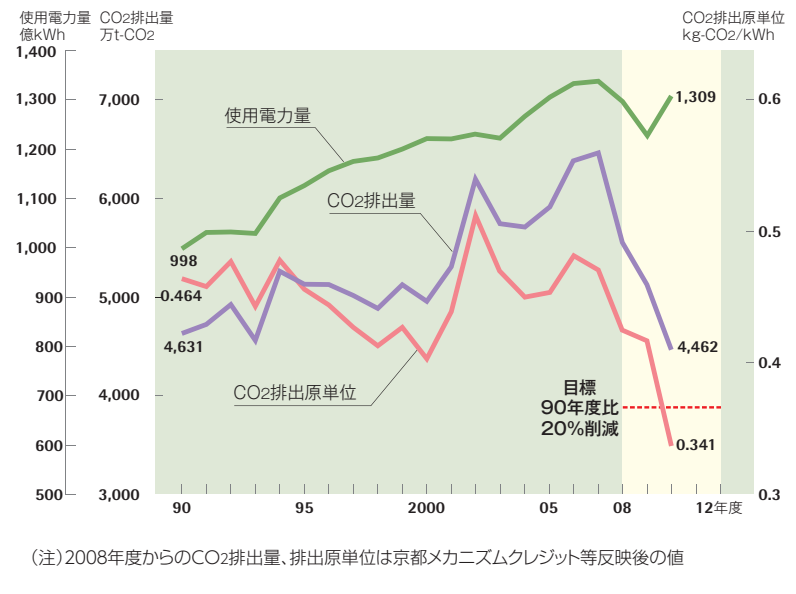


年度)におけるCO<sub>2</sub>排出原単位を1990年度比で平均20%削減することを目標としています。

政府の要請を受け入れ、浜岡原子力発電所を停止したことにより、目標達成は厳しい状況にあります。今後とも需要・供給の両面において鋭意努力していきます。

再生可能エネルギーの推進、火力発電の熱効率向上などの取り組みは、P11~12、P16およびCSR報告書(PDF/e-BOOK) P19~20を参照ください。

### CO<sub>2</sub>排出量の推移



## 地球規模での温暖化対策・電力需要面の取り組み

### 海外での環境関連事業

これまで培ってきた技術力やノウハウなどの経営資源の有効活用により、途上国などの環境保全に貢献し、地球規模で温暖化対策を進めるため、クリーン開発メカニズム(CDM)※や共同実施(JI)※などの環境関連事業を積極的に進めています。

マレーシア国ボルネオ島サバ州東部において、パーム椰子房を燃料とするバイオマス発電を行うCDM事業(2地点、各1万kW)に2006年度に参画、2008年度に運転を開始しています。

※**クリーン開発メカニズム(CDM)**:先進国が途上国において温室効果ガス削減プロジェクトを共同で実施し、それによって達成された削減分を先進国の削減分としてカウントできる仕組み。

※**共同実施(JI)**:先進国同士が共同で温室効果ガス削減プロジェクトを実施し、それによって達成された削減分を投資国が自国の削減分としてカウントできる仕組み。



マレーシア パーム椰子房発電事業

### お客様のエネルギー利用の効率化の推進

中部電力は、お客様のご要望に応じたさまざまなエネルギーサービスを提供し、豊かな暮らしや産業の発展を支えとともに、地球環境の保全に取り組んでいます。

再生可能エネルギー利用技術である「ヒートポンプ」は、空気の熱を利用することにより、大幅なCO<sub>2</sub>排出削減を実現する切り札です。今後も「エコキュート」を中心とするヒートポンプ機器の積極的な提案活動を展開して、低炭素社会の実現を目指します。

### 高効率空調システムの普及

法人のお客様へのエネルギーソリューションの活動を展開する中で、省エネルギー・環境性に優れた電気式ヒートポンプ空調機の提案を行い、2010年度は1,179件、約12.9万kWの採用をいただきました。

### エコキュートの普及

家庭で消費するエネルギーの約3分の1は給湯に使用されています。この給湯エネルギーを削減し、家計と地球環境に貢献できる「エコキュート」の普及拡大に取り組んでいます。

お客様のご支持により、中部電力営業エリア内での普及台数は2010年度末に累計約42万台となりました。



## 自然との共生・循環型社会の形成

### 生物多様性の保全

#### 事業における生物多様性の保全

徳山水力発電所の建設工事において、猛禽類や希少植物の保全活動に取り組んでいます。

猛禽類のクマタカの保全については、その行動圏や繁殖状況を調査し、専門家である日本ワシタカ研究センターの指導のもと、繁殖活動に影響を与えない施工方法にて工事を実施しています。その結果、2010年は猛禽類が繁殖に成功しています。

また、工事区域内に希少植物(コウライイチゴケなど)が確認されたため、有識者の指導を受けて工事区域外への移植を実施し、定着していることを確認しています。



コウライイチゴケの移植

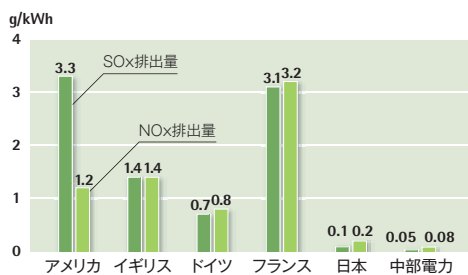
### 地球環境の保全

#### 大気汚染防止対策

火力発電所では、燃焼時にSOx(硫黄酸化物)が発生しないLNGの利用拡大、低硫黄燃料油の使用、排煙脱硫・脱硝装置の設置、燃焼時にNOx(窒素酸化物)発生量を低減させるバーナの採用などの対策を行っています。

これにより、発電電力量当たりのSOx、NOx排出量は世界で最も優れた水準にあります。ばいじんについては、高性能集じん装置の設置などにより、排出を極力抑制しています。

火力発電電力量当たりのSOx、NOx排出量の主要国との比較



出典:「図表で語るエネルギーの基礎」(電気事業連合会)より作成  
中部電力:2010年度、日本:2009年度、その他は2005年

### From the Partner

#### 日本ワシタカ研究センター

日本ワシタカ研究センターは猛禽類の生息地保全活動や傷病により保護される個体の救護活動に取り組んでいます。

中部電力による各種工事でも依頼に応じて希少猛禽類の調査結果やその保全対策について助言を行っています。環境保全に対する中部電力の現場担当者の意識は高く、業務を通じて猛禽類に関する専門的な知識を得た方もおられますので、工事では計画段階から終了後まで猛禽類保全に配慮した対策がとられています。



日本ワシタカ研究センター  
所長  
中島 京也 様

### 循環型社会の形成

#### 3Rの推進

中部電力は請負会社排出分を含めた廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rを基本にさまざまな取り組みを展開しています。

2010年度の産業廃棄物発生量は177.7万tとなりました。社外埋立処分量は前年度より減少し、5.3万tとなりました。引き続き社外埋立廃棄物の有効活用について検討を進め、廃棄物の削減に向けた取り組みを展開していきます。

産業廃棄物、副生物の発生量およびリサイクル量(2010年度、万t)

	発生量	リサイクル量	社外埋立処分量
石炭灰	117.5	117.2	0.3
重原油灰	0.1	0.1	0.0
石こう	32.4	32.4	0
汚泥(固化した物を含む)※1	13.3	3.2	4.1
廃プラスチック類	0.4	0.1	0.2
金属くず	3.8	3.8	0.0
ガラス・陶磁器くず	0.3	0.0	0.2
建設廃材	8.7	8.2	0.4
その他※2	1.0	0.8	0.1
合計	177.7	165.9	5.3

※1:自社埋立処分量5.7万t(埋立用材として利用)

※2:廃油など

(注)四捨五入の関係で合計が合わないことがあります。

環境管理・環境教育

中電グループECOポイント活動

環境に配慮した自発的な活動の促進を図るため、中部電力およびグループ会社の従業員と家族を対象に、ECOポイント活動に取り組んでいます。この活動は、身近な環境活動に対し、ポイントを付与するもので、2010年度末で11,200人を超える従業員などが参加しています。

活動実績は、半期毎に集約され、優秀な個人および事業場を称揚しています。

2010年度 社会貢献活動の支援先

南遊の会	ベトナムでのマングローブ林の再生活動
ICAN	環境活動をテーマとしたフィリピンの子どもたちとの「絵手紙交換」による教育支援
長良川環境レンジャー協会	長良川での小中学生対象の「子ども水辺安全講座」と小中学校への「出前教室」
(財)オイスカ	放置されている学校林の整備
長野県水辺環境保全研究会	千曲川に鮭を呼び戻すための稚魚の放流活動

また、活動参加者の環境保全への思いを社会に還元するため、環境保全に取り組むNPOなどと協働した社会貢献活動も行っています。参加者が獲得したポイントを支援する団体に投票して支援規模を決めています。



ベトナム・マングローブ植林ツアー

経済的な支援だけでなく、従業員の参加による支援も行っています。ベトナムでマングローブ林の再生事業を手掛けるNGO南遊の会の活動については、2009年に続き、2010年8月にグループ会社も含めた従業員など12名が、ボランティアとして「ベトナム・マングローブ植林ツアー」に参加、日本から参加した大学生や現地の学生とともにマングローブの植林を実施しました。

地域・世界との連携

森への招待状

中部電力は、岐阜県郡上市大和町内ヶ谷に1,100万m<sup>2</sup>の広大な森(内ヶ谷山林)を保有しています。この森を活用して、「森への招待状」と名付けた市民参加型の森林活動に取り組んでいます。

お客さまを対象とした活動としては、「間伐体験」や「森林体験」をしていただくプログラムを実施しています。

また、従業員やOBを対象にした取り組みのひとつとして、人工林の知識と間伐技術を有する間伐ボランティア「ちゅうでんフォレスター」の育成に注力しています。これまでに育成した100名の多くは、社内NPO「水とみどりを愛する会」に所属し、休日を利用して愛知県などで森林保全活動に取り組んでいます。



カタール国への農業・緑化支援

中部電力のLNGの輸入元であるカタール国において、乾燥地での緑化促進に役立てるため、2005年から人工ゼオライトを使い栽培試験を実施しています。

2011年1月からは、社員1名をカタール国へ駐在させ、緑化の技術支援を行っています。



カタール国アルクールコミュニティでの緑化技術支援

## アクションプラン

項目		中期目標(2020年度)	
低炭素社会の実現	原子力発電の推進	▶安全性確保を前提に原子力発電設備の最大利用(設備利用率85%※1) ▶原子燃料のリサイクル推進 ▶原子力発電所リプレース計画の推進、新規立地に向けた取り組みの継続	
	再生可能エネルギーの開発推進	▶RPS法の各年度導入量(基準利用量)の確実な達成※2	
	省エネルギーの推進	火力発電所の熱効率向上	▶既存設備の継続的な熱効率維持と上越火力の確実な開発、および最適な運用により国内最高の水準を達成(総合熱効率47%(低位発熱量基準))
		次世代自動車※3の導入推進	▶次世代自動車の導入推進 1,500台導入
		家庭部門の省エネルギー	▶エコキュート等、ヒートポンプを中心に据えた高効率機器の普及拡大 ▶エコライフ推進活動の積極的な展開
	業務・産業部門の省エネルギー	▶中部電力およびグループ会社の技術やノウハウなどを活用したソリューションの提案	
	CO <sub>2</sub> 削減の研究	▶CO <sub>2</sub> 削減に関する研究の推進 次世代自動車普及支援、バイオマス燃料の有効利用 CO <sub>2</sub> 分離、回収、固定および生物利用技術 太陽光発電等分散型電源の大量普及時に向けた系統対応技術	
補完的取り組み	▶京都メカニズムの活用(次期枠組みへの適切な対応)		
2008~2012年度における平均のCO <sub>2</sub> 排出原単位※4 20%削減(1990年度比) 2013年度以降の次期枠組みへの適切な対応			
自然との共生	生物多様性に配慮した事業活動	▶生物多様性に配慮した事業の実施 ▶事業エリアの自然との調和、環境保全 ▶自然再生活動、自然保全技術開発の推進	
	環境保全活動の推進	▶毎年16,000本の苗木を社外へ配布、累計50万本以上	
循環型社会の形成	3R※5の推進	▶中部電力およびグループ会社の廃棄物社外埋立処分量の削減 廃棄物の社外埋立処分量1%未満	
	グリーン調達推進	▶中部電力およびグループ会社の事務用消耗品のグリーン調達率向上 事務用消耗品グリーン調達率100%	
化学物質管理	PCB処理の推進	▶PCB含有機器の確実な管理および処理の推進 2016年までに処理完了	
環境管理の徹底		▶中部電力およびグループ会社におけるEMS手法を活用した有効で効率的な業務改善の継続的な推進	
環境に配慮した自発的行動ができる人材の育成		▶中部電力およびグループ会社従業員の環境配慮意識の維持向上 ECOポイント活動への全員参加、ちゅうでんフォレスター累計300人育成	
地域との連携		▶地域と連携したエネルギーと環境に関する教育の充実 ▶地域社会への積極的な環境活動の実施、地域企業との連携強化	
世界との連携		▶中部電力およびグループ会社の技術やノウハウなどを活用した海外エネルギー事業の実施拡大	

※1:設備利用率は、定期検査の有無などの影響で毎年変化するため、長期的な期間(5カ年平均)で算出  
 ※2:太陽光発電の新たな買取制度が開始(2009年11月)されたことに伴いRPS法の目標を見直し

※3:電気自動車、プラグインハイブリッド車等  
 ※4:CO<sub>2</sub>は使用電力量当たりの排出原単位。排出原単位の算定は地球温暖化対策推進法に基づく「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に準拠(同制度ではグリーン電力証書などのCO<sub>2</sub>削減価値は未考慮)

2010年度実績	自己評価	今後の取り組み	CSR報告書掲載ページ (PDF/e-BOOK)
<ul style="list-style-type: none"> <li>駿河湾の地震を踏まえた耐震安全性への影響確認等に関する国の審議継続により、5号機が長期停止し、設備利用率が低下:61.9%(3~5号機5カ年平均)</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>浜岡3~5号機の早期起動を目指し、すでに報告している緊急安全対策に基づく津波対策の確実な実施と、追加対策の確実な実施</li> </ul>	P05 P06 P07 P08 P18
<ul style="list-style-type: none"> <li>RPS法による目標量 約15.5億kWhを達成</li> <li>御前崎風力発電所の営業運転開始(第2期分)</li> <li>メガソーラーいいだの営業運転開始</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ一体となった、風力発電、太陽光発電、水力発電、バイオマス発電など再生可能エネルギーの積極的な開発・導入</li> <li>2014年度までに約20万kWの再生可能エネルギーを開発</li> </ul>	P11 P12
<ul style="list-style-type: none"> <li>高効率火力発電プラントの優先的な運用を行ったが、猛暑により効率の低い石油火力機の運転機会が増加</li> <li>総合熱効率45.79%(2009年度実績:46.21%)</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>上越火力の着実な開発(運転開始2012年度~2014年度)</li> <li>高効率火力発電プラントの優先的な運用</li> </ul>	P19 P20
<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代自動車(プラグインハイブリッド、電気自動車)累計200台導入</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期目標達成に向けた次世代自動車の導入推進</li> </ul>	P36
<ul style="list-style-type: none"> <li>エコキュート普及拡大に向けた各種PRの充実(実績:契約台数約7.6万台(前年度比10%増)、累計約42万台)</li> <li>環境家計簿普及拡大に向けた啓発活動の実施</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコキュート等の高効率機器の普及拡大</li> <li>子ども向け環境情報サイト「エコランド」、環境家計簿などを利用したエコライフの啓発活動の推進</li> </ul>	P35 P36 P45
<ul style="list-style-type: none"> <li>電気式ヒートポンプなどの高効率機器の普及活動を充実(実績:1,179件、約12.9万kW(前年度比7%減))</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気式ヒートポンプなどの高効率機器の更なる普及拡大</li> <li>省エネ診断等の提案活動による省エネルギーの推進</li> </ul>	P35
<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代自動車の普及支援に資する充電システムの研究開発を実施</li> <li>木質バイオマス利用スターリングエンジン発電の運転試験を実施</li> <li>太陽光発電の大量導入に向けた系統への影響評価等の研究を実施</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電等分散型電源の大量普及に向けた対応技術の研究推進、バイオマス燃料の有効利用や風力発電の適地拡大に向けた研究推進、CO<sub>2</sub>固定技術等の研究推進</li> </ul>	P12 P34
<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出権購入および政府償却口座への移転によるCO<sub>2</sub>排出原単位への反映を着実に実施</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府の要請を受け入れ、浜岡原子力発電所を停止したことにより、目標達成は厳しい状況</li> <li>需要・供給の両面において鋭意努力していく</li> </ul>	P35
<ul style="list-style-type: none"> <li>京都メカニズムクレジット反映後原単位 0.341kg-CO<sub>2</sub>/kWh(1990年度比26.6%減)</li> <li>京都メカニズムクレジット反映前原単位 0.473kg-CO<sub>2</sub>/kWh(1990年度比2.0%増)</li> </ul>	●		P34
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境アセスメントなどにおける猛禽類調査、希少動植物の保全活動</li> <li>自然や景観に配慮した、設備形成の実施</li> <li>火力発電所共生施設を活用した自然体験イベント等の開催</li> <li>苗木の配布:73,960本(累計約49.8万本)</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>発電所や送電線建設における希少動植物の保全活動推進</li> <li>自然や景観に配慮した設備形成を促進</li> <li>火力発電所地域共生施設を活かした地域貢献活動の実施</li> <li>緑豊かな地域づくりを支援</li> </ul>	P38 P39 P40
<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の社外埋立処分率0.7%(再利用困難な一部の建設汚泥を除く)</li> <li>シーキュラス<sup>※6</sup>のダイオキシシン吸着材、土壌改良材としての用途開拓</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>社外埋立廃棄物の削減に向け経済性を考慮しながら3Rを推進</li> <li>石炭灰の有効利用推進とシーキュラスの販売増加</li> </ul>	P41
<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン調達率98.5%</li> <li>グリーン購入法に適合したコピー用紙の調達</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務用消耗品購入時の更なる意識啓発を実施</li> </ul>	P41
<ul style="list-style-type: none"> <li>低濃度PCB絶縁油の確実な処理を実施</li> <li>処理量6,300kl(2010年度目標に対し98%)</li> <li>柱上変圧器・部材処理施設の確実な処理を実施</li> <li>処理台数10.6万台(2010年度目標に対し97%)</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>低濃度PCB絶縁油、高濃度PCB機器の処理を確実に実施</li> <li>柱上変圧器・部材処理施設の確実な処理を実施</li> </ul>	P42
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループにおけるEMS導入率100%の継続と有効で効率的な環境管理活動の推進</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループにおける有効で効率的な環境管理活動の継続的な実施</li> </ul>	P43 P44
<ul style="list-style-type: none"> <li>「中電グループECOポイント活動」の活性化に向けたシステムの整備</li> <li>森林ボランティア指導者「ちゅうでんフォレスター」年間20名育成(累計100名)</li> <li>自発的に環境意識向上を目指す従業員に対し、eco検定受験に向けたサポートを実施</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中電グループECOポイント活動」とおとした環境意識の向上と環境行動の促進</li> <li>ちゅうでんフォレスターの育成(毎年20名)と活用</li> <li>eco検定受験サポートを継続実施</li> </ul>	P43 P45 P46
<ul style="list-style-type: none"> <li>ちゅうでん小学生エコセッション(参加6校、519名)</li> <li>ちゅうでんエコの輪活動(17の市民団体と7の活動)</li> <li>市民参加型の森とふれあう活動(9回)、出前教室(458回)</li> <li>職場・施設見学会(283回)、大学との連携授業の実施</li> <li>他企業と連携したEPOC<sup>※7</sup>の活動を推進</li> <li>COP10関連イベントに参加し、当社の取り組み情報発信</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>ちゅうでん小学生エコセッション、ちゅうでんエコの輪活動を継続実施</li> <li>市民参加型の森とふれあう活動「森への招待状」、出前教室、職場・施設見学会の継続実施</li> <li>引き続き、EPOC活動を推進</li> </ul>	P39 P45 P46 P47 P54 P55
<ul style="list-style-type: none"> <li>初設発電所、パーム椰子房発電事業の安定運転に向けた技術支援の実施</li> <li>CO<sub>2</sub>削減に資する新規案件の開発・調査の継続実施</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>風力・太陽光・水力・バイオマス発電などの再生可能エネルギー案件の調査・開発を実施</li> <li>ポスト京都議定書に向けた動きを注視し、適切に対応</li> </ul>	P35 P47

※5:廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)  
 ※6:碧南火力(石炭火力)から発生する石炭灰を原料として製造した人工ゼオライト  
 ※7:地元企業の環境啓発団体「環境パートナーシップ・CLUB」の略

※各項目および中期目標は「中部電力グループ環境基本方針」の見直しなどに伴い一部表現を変更した。



お客さま満足(CS)のために

CS推進活動の展開

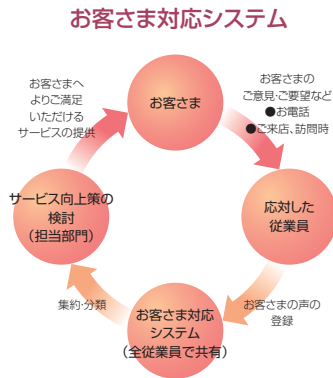
中部電力では、お客さまからの信頼の獲得およびお客さまにご満足いただけるサービスの提供を目指しており、販売部門は全社統一スローガンを掲げ、CS向上に取り組んでいます。

CSスローガン

- 「心を込めて(対応の好感度向上)」
- 「正確に(的確な業務処理)」
- 「早く(ニーズの施策反映)」

「お客さまの声」を活用する仕組み

中部電力では、お客さまに、よりご満足いただけるサービスをお届けするために、営業所の窓口や電話などを通じて寄せられるご意見やご要望などを「お客さま対応システム」に登録し、全従業員で情報共有しています。2010年度は、約2,200件の「お客さまの声」の登録がありました。こうした「お客さまの声」は、中部電力にとって貴重な財産であり、今後も、よりお客さまにご満足いただけるサービスの提供を目指していきます。



「お客さまの声」からの改善事例

例:「雷などによる、故障停電時の対応について」

●フリーコールの使い易さの向上

お客さまの声

停電について問い合わせようと、フリーコールに電話をした。急いでいるのに、自動音声のアナウンスが流れていてすぐにつながらない。

改善事例

お客さまからのお電話が集中する停電時などには、自動音声アナウンスを解除し、お電話を担当部署に直接おつながりできるように、改善しました。

株主・投資家の皆さまからの信頼に応えるために

IR活動によるコミュニケーションの推進

中部電力では、機関投資家・証券アナリストと経営層が業績や経営計画について直接意見交換する場として会社説明会を年3回程度開催するほか、随時国内外の株主・機関投資家の皆さまを個別に訪問するなどの活動を展開しています。

また、IR活動で得たご意見などを経営にフィードバックするなど、双方向コミュニケーションの充実に努めています。

このほか、事業活動への理解を深めていただくために、発電所などの施設見学会や、個人投資家向けの会社説明会なども開催しています。

2010年度IR活動実績

対象	内容	回数	実施月	
機関投資家 証券アナリスト	会社説明会	2回	5月、11月	
	個別訪問・取材対応	122回	随時	
	施設見学会	2回	8月、3月	
個人	株主	施設見学会	10回	8月~11月
	投資家	会社説明会	2回	8月、3月

積極的な情報開示

金融商品取引法などの関係法令や上場している金融商品取引所(証券取引所)の定める適時開示規則に沿って情報開示を行うとともに、ホームページや「アニュアルレポート」、「ちゅうでん(株主向け報告書)」などの冊子を通じて積極的な情報発信を行っています。

HP > IR・企業情報 > IR関連情報

株主総会

中部電力では、多くの株主の皆さまにご参加いただけるよう株主総会の集中日を避けて開催しています。また、株主総会招集通知の早期発送、インターネットによる議決権行使の採用、機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームへの参加など、株主の議決権行使を円滑にするための取り組みを進めています。

## 取引先の皆さまとともに

取引先の皆さまとのコミュニケーションや公正かつ誠実な取引を通して、より確かな信頼関係の醸成に努めるとともに、協同して資材調達におけるCSRの展開に取り組んでいきます。

## 中部電力グループ調達基本方針

中部電力グループは、「中部電力グループ調達基本方針」に基づいて調達活動を展開しています。

## 中部電力グループ調達基本方針(抜粋)

コンプライアンスの徹底	オープン・ドア・ポリシー
安全確保	公平・公正な調達
環境負荷の軽減	パートナーシップ

HP > IR-企業情報 > 資材調達情報

## 情報開示・コミュニケーションの充実

中部電力は、取引先の皆さまを、相互発展を目指す大切なパートナーと考え、CSRの実践をお願いするとともに、情報開示についても積極的に取り組んでいます。

例年、年度初めには「調達概要説明会」を開催し、CSRの実践や経営計画について説明するとともに、資機材調達計画などの情報開示を行っています。2010年度は229社、約430名の皆さまにご参加いただきました。(2011年度は、東日本大震災などの影響により中止)

また、同説明会でのアンケートの実施や資材取引全般に関する相談窓口の設置など、取引先の皆さまの生の声をお聞きすることに努めています。

## 取引先の皆さまの声から生まれた改善例

## ●商談コーナーリニューアル

「カウンターが狭い」  
「隣の声が気になる」  
といったご要望をもとに、スペースや数を改善しました。



## 社会への貢献

## 中部電力グループ社会貢献基本方針

中部電力グループは、「中部電力グループ社会貢献基本方針」に基づき、さまざまな活動を推進することで、地域・社会の持続的発展に積極的に貢献し、良き企業市民としての責任を果たしてまいります。

## 中部電力グループ社会貢献基本方針

中部電力グループCSR宣言に基づき、社会貢献に関する基本方針を以下のとおり定める。

- ①対話と協働を大切にしながら、よりよい地域・社会づくりをお手伝いしていきます。
- ②企業としての社会貢献だけでなく、従業員の自発的活動を尊重し、積極的に支援していきます。
- ③社会貢献活動の内容は広く一般にお知らせし、活動の持続的な改善に努めます。

## 《重点分野》

- 地域の安全・安心の確保
- 環境の保全
- 次世代教育
- 文化・スポーツ活動

HP > IR-企業情報 > CSR(企業の社会的責任) > 社会貢献

## 地域の安全・安心の確保

日常生活での安全確保は地域の重要な課題です。中部電力グループでは、設備や技術などを活かして、地域社会における安全の向上と、ほっとする安心をお届けすることに貢献していきます。

## 環境の保全

環境問題の解決にあたっては、地域の皆さまとの連携を推進するとともに、持続的に取り組んでいくため次世代を担う人材を育てることが重要であると考えています。中部電力グループは、地域とともに環境保全に貢献していきます。



ちゅうでん小学生エコセッションで、子どもたちと意見交換をする水野社長

次世代教育

未来を担う子供たちにエネルギーや環境問題などに関心を持ってもらえるよう、教育支援活動を展開しています。

PR展示館

中部電力グループは、エネルギーや環境、科学などについて楽しく体験しながら学べる展示施設を運営し、多くの皆さまにご利用いただいています。

HP > IR・企業情報 > 会社情報 > 所在地一覧 > PR展示施設

Topics

井川ダム「ダムカード」

井川水力発電所に併設された「井川展示館」では、くらしや産業を支える水力発電の仕組みやダムの役割などをご紹介します。また、これらをより知っていただくため井川ダム「ダムカード」を制作し、来場者のうち、ご希望される方へ配布しています。



ダムカード(表面)

「出前教室」「職場・施設見学」の実施

中部電力社員が小・中学校などへ出向き、発電の仕組みをわかりやすく紹介する「電気実験教室」や、エネルギーと環境保全の重要性について紹介する「環境・エネルギー教室」などの「出前教室」を開催しています。また、身近にある営業所や発電所・変電所など、中部電力の職場や施設を見学していただくとともに、中部電力が果たす役割や取り組みなどを紹介する「職場・施設見学」も行っています。

2010年度実績

出前教室	458回実施	17,477名参加
職場・施設見学	283回実施	5,087名参加

文化・スポーツ活動

中部電力グループは、地域の歴史に息づく文化・芸術の継承や新たな文化活動の創生、スポーツ活動の振興にも貢献したいと考えています。また、そのようにして形づくられた地域の共通財産を、将来に向けて発展させ、より魅力ある地域をつくるお手伝いをしていきます。

従業員

明るく働きやすい職場づくり/「人財」の育成

人権啓発基本方針

中部電力では、すべての人権が尊重される社会の実現に向け、企業として社会的責任を果たすため、人権啓発基本方針のもと、本・支店に「人権啓発推進委員会」を組織し、研修などの啓発活動を推進しています。

人権啓発基本方針

- 1 人権問題(同和問題、障がい者・外国人・性別等に対する差別など)について、従業員等の正しい理解と認識を深めるため、啓発活動を実施する。
- 2 同和問題については、人権問題の重要な柱として捉え、啓発活動を実施する。
- 3 啓発活動は、計画的かつ継続的に実施する。

障がい者雇用・高齢者雇用の推進

障がい者の方々に対する新たな職域開拓のため、2001年に中電ウイング(株)を設立しました。「共生」と「人間尊重」という経営理念のもと、50名(2011年6月末時点)の障がい者が「心合わせ」「力合わせ」をしながら、印刷、ギフト商品販売、園芸事業などに携わっています。

中電ウイング(株)を含めた中部電力の障がい者雇用率は1.95%(2011年6月末時点)です。(法定雇用率1.8%)

また、定年退職者の優れた能力を広範に活かすため、定年退職者再雇用制度(シニア・スタッフ制度)を導入しています。

Voice on Site

1級オフセット印刷技能士の資格を取得しました

私は印刷業務に従事しています。聴覚の障がいがありますが、入社以来、周囲の協力を得ながら「2級オフセット印刷技能士」の国家資格を取得し、更に、昨年1級を取得しました。これからもより質の高い製品をご提供していくために切磋



琢磨していきたいと思  
います。

中電ウイング(株)  
印刷課  
中川 貴之

## ワーク・ライフ・バランスの実現

### 仕事と家庭生活の調和を図る勤務制度

中部電力は、業務の実態に加え、従業員の意向も踏まえて勤務日や勤務時間帯などを柔軟に選択・指定する「計画休日・指定勤務制」を導入しています。

この制度は、計画的・効率的な業務遂行と充実した家庭生活の両立に役立てられています。

### 育児・介護を支援する制度

#### 育児への支援

「子が満2歳に達する日」までの休職や、「子が小学校1年生の年度の末日」まで勤務時間を短縮できる制度を設けています。また、従業員の育児参加をより一層支援するため、一定期間の育児休職にライフ・サポート休暇を充当できる仕組みを整備しています。

#### Voice on Site

#### 育児休職を取得しました

男性が育児休暇を取得することに抵抗もありましたが、それは昔の話。職場の支援をいただき取得しました。妻から「頑張ったね。ありがとう」との言葉をもらい、仕事と育児の両立の大切さを改めて認識し、今も効率的な仕事を心がけています。

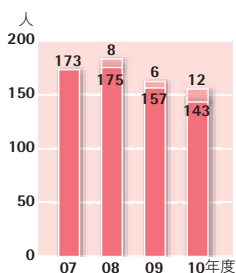


中部電力  
岐阜支店用地部 不動産管理課  
加藤 康平

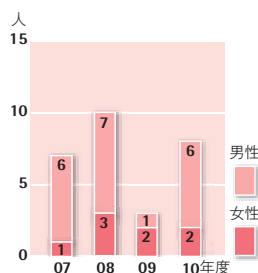
#### 介護への支援

勤務時間の短縮や通算2年間の休職ができる「介護休職制度」を設けています。

育児休職取得人数の推移



介護休職取得人数の推移



## 女性活躍推進室の活動

中部電力は、多様な「人材」がそれぞれの個性を尊重しあい、能力を十分に発揮して働くことが必要不可欠と考えています。特に、女性の活躍推進をその中核的取り組みとして位置づけ、専任部署である「女性活躍推進室」が中心となり、「個の育成・活動の場の創出」「働き方の変革」「社外とのコラボレーション」などを柱に活動しています。

#### 雇用状況

(2011年3月末時点、採用人数は2011年4月入社)

	男性	女性
従業員数	15,175人(90%)	1,765人(10%)
平均年齢	41歳	37歳
平均勤続年数	22年	17年
管理職数	5,463人(98%)	84人(2%)
採用人数	468人(87%)	69人(13%)

## 労働安全・衛生の取り組み

中部電力では、従業員の安全と健康は企業の重要な存立基盤であると考え、各職場において維持向上の徹底を図っています。また、当社が発注する工事に携わる方々の安全衛生にも配慮しています。

### 2011年度全社安全衛生活動方針 重点項目

#### 1 安全

- (1)[交通] 地域、交通事情等を踏まえた、安全指導力の発揮による車両事故の減少
- (2)[作業] 自律的な災害防止活動による多発災害、重篤災害の防止

#### 2 衛生

- (1)メンタルヘルスクエア対策
- (2)過重労働による健康障害防止対策
- (3)生活習慣病等の疾患対策

#### 労働災害 発生件数

	07年度	08年度	09年度	10年度
中部電力従業員	21	19	20	26
請負・委託	35	46	38	63

## 請負会社に対する安全指導の徹底

「安全衛生活動方針」に基づき、請負災害の根絶に向けて、安全担当部署と工事担当部署などで構成する「請負安全対策会議」を適宜開催しています。

この会議では、請負会社に対する災害防止の指導方針を策定し、請負会社への安全指導を徹底しています。



## ステークホルダー・ダイアログ

2011年1月、中部電力が事務局を務める森林育成のための間伐促進活動「森の町内会」の間伐対象地である長野県駒ヶ根市内にて、ステークホルダー・ダイアログを開催しました。

中部電力が行っている「地域とともに取り組む環境貢献活動」について紹介した後、「森の町内会」活動にご協力いただいている皆さまとの意見交換を行いました。いただいたご意見を踏まえ、今後も社会貢献活動に取り組んでいきます。



ご参加いただいた皆さま：石塚硝子(株)様、ユニー(株)様、王子製紙(株)様、上伊那森林組合様、環境NPOオフィス町内会様

### 参加者からの主なご意見

- 「森の町内会」活動は、NPOとの協働など労力や時間をかけて行う社会貢献活動と比べ、手軽に始めることができる。国内の森林保全に役立つ上、自社の環境報告書でもPRできることから、経営層にも理解が得られやすい仕組みだと感じた。
- 小売業においては消費者と生産者とのつながりが重要だが、環境貢献活動も同じであり、活動を継続させるためには、支援者と支援の結果とをつなげることが重要。「森の町内会」活動は、サポーター企業に対し、間伐実績がきちんと報告される仕組みが良いと思う。

## 三重大学との意見交換会

中部電力では、産学連携の取り組みの一環として国立大学法人三重大学との意見交換会を開催しています。

2010年9月に、同大学の「環境報告書2010」と中部電力グループの「CSR報告書2010」に基づき、学生を含む大学関係者と「持続可能社会構築への貢献」について意見交換を行いました。



### CSR報告書に対する主なご意見

- COP10の開催を間近に控えたタイミングで、生物多様性保全をハイライトとして取り上げ、これまでの取り組み実績や成果などを具体的に示している。COP10に積極的に関与するという企業の姿勢が感じられ、好感が持てる。
- 労働災害の発生件数などネガティブな情報も隠さずに掲載している点が評価できる。

## サステイナブル経営診断

中部電力では、NPO法人環境経営学会が実施する「サステイナブル経営診断」を継続して受診しています。

2010年度も、持続可能な社会構築に貢献する取り組みを行っているかどうかの観点から、「経営」「環境」「社会」の各分野について評価を受け、議論を行いました。その結果、中部電力グループは多くの項目で概ね高い水準にあり、前年に比べても取り組みが前進しているとの評価を得ましたが、以下のような点でさらに改善が必要であるとの指摘をいただきました。

### 主な指摘事項

- **社会分野「安全・健康で活力ある地域社会の形成」について**  
これまでの原子力発電所の安全対策や想定される災害・事故やその影響を徹底的に見直すとともに、行政とともに地域社会の持続可能性を担保する対策の構築が求められる。

▷ 福島第一原子力発電所の事故を受け、一層の対策強化を実施していきます。 Look! P05～08

- **経営分野「企業倫理・法令遵守」について**

水力発電所においてコンプライアンス違反があったことは誠に遺憾であり、コンプライアンスを重視する企業風土が一部形骸化していないかの検証など、本質的な発生原因の徹底究明と再発防止策の早期実施が望まれる。

▷ 原因究明、類似事象の調査および再発防止策の策定と実施を行いました。今後も、継続的に再発防止策を実施していきます。 Look! P13～14

中部電力グループにおける「コンプライアンス」の定義を、分かりやすい言葉で社会と共有することが求められる。

▷ CSR報告書2011では、「コンプライアンス」の定義を、「法令・社内ルール・企業倫理の遵守」と明記しました。 Look! P18

# 会社概要 (2010年度または2011年3月末時点)

**会社名** 中部電力株式会社  
(Chubu Electric Power Co., Inc.)

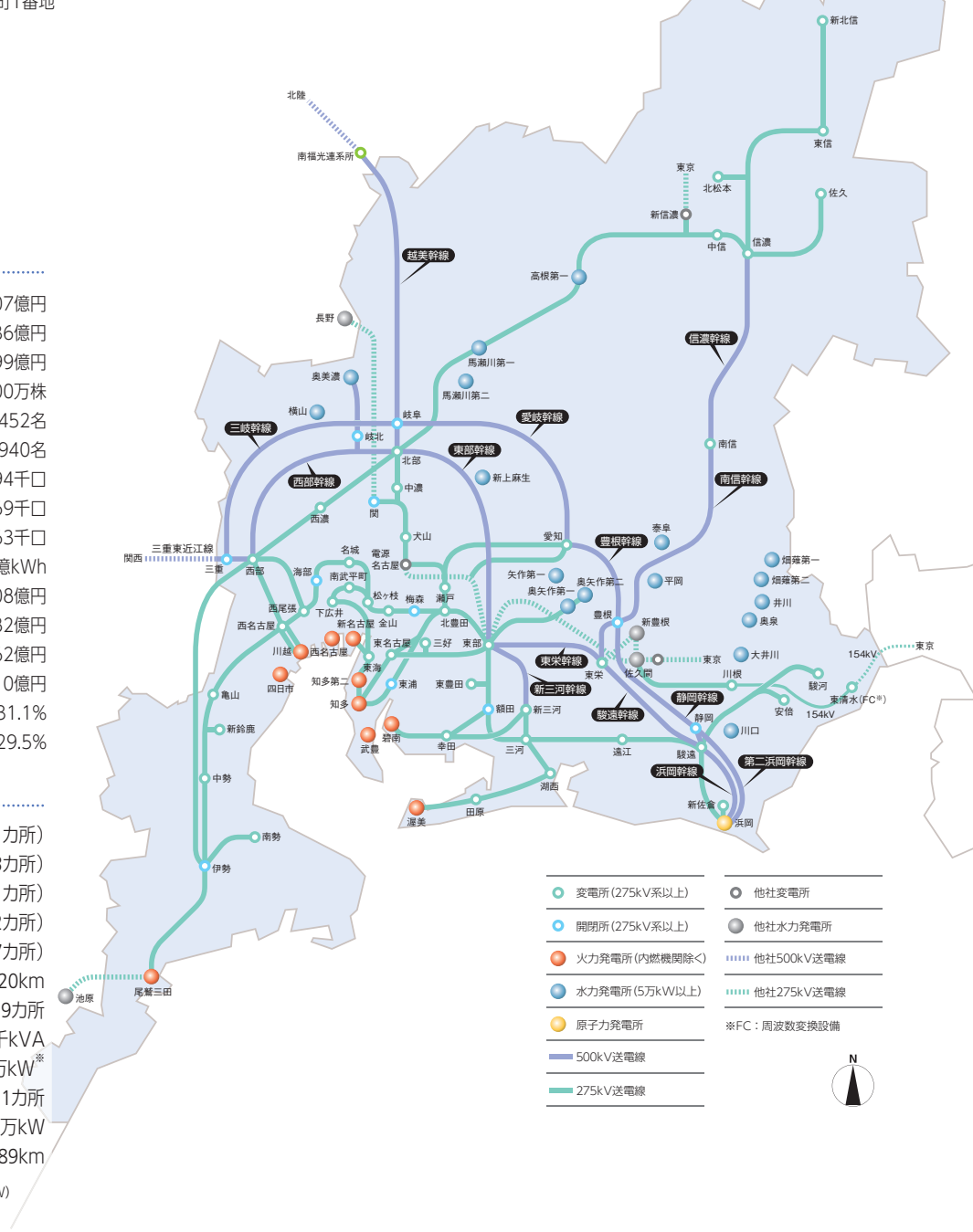
**本店所在地** 〒461-8680 名古屋市長区東新町1番地  
TEL (052) 951-8211 (代表)

**代表取締役社長  
社長執行役員** 水野 明久

**設立年月日** 1951年5月1日

**供給エリア** 愛知、岐阜(一部を除く)、  
三重(一部を除く)、長野、  
静岡(富士川以西)の中部5県

## 電力設備系統図



## 事業の概要

資本金	4,307億円
総資産	5兆336億円
有利子負債	2兆5,099億円
発行済株式総数	7億5,800万株
株主数	343,452名
従業員数	16,940名
契約口数	電灯 9,294千口
(特定規模需要を除く)	電力 1,169千口
	合計 10,463千口
販売電力量	1,309億kWh
総売上高	連結 2兆3,308億円
	単独 2兆1,782億円
経常利益	連結 1,462億円
	単独 1,310億円
自己資本比率	連結 31.1%
	単独 29.5%

## 設備の概要

発電設備	火力	2,396.9kW(11カ所)
	水力	521.9kW(183カ所)
	原子力	361.7kW(1カ所)
	新エネルギー	2.3kW(2カ所)
	合計	3,282.8kW(197カ所)
送電設備	送電線路巨長	12,220km
変電設備	変電所数	939カ所
	出力	122,443千kVA
		30万kW*
	連系所数	1カ所
出力	30万kW	
配電設備	配電線路巨長	131,089km

\* 周波数変換設備を別掲(運用出力10万kW)

## 中部電力グループ ● 連結子会社37社 ■ 持分法適用関連会社26社

### エネルギー事業

- 株式会社シーエナジー
- 株式会社エル・エヌ・ジー中部
- 北陸エネルギー株式会社
- Chubu Electric Power Company International B.V.
- Chubu Electric Power Company U.S.A. Inc.
- Chubu Electric Power (Thailand) Co., Ltd.
- Chubu Electric Power Goreway B.V.
- Chubu Electric Power Falcon B.V.
- Chubu Electric Power Thailand SPP B.V.
- パジャドリ発電会社
- パジャドリ運転保守会社
- TC Generation, LLC
- Chubu Ratchaburi Electric Services Co., Ltd.

- A.T. Biopower Co., Ltd.
- Tyr Capital, LLC
- Goreway Power Station Holdings ULC
- MT Falcon Holdings Company, S.A.P.I. de C.V.

### 情報通信業

- 株式会社中電シーティーアイ
- 中部テレコミュニケーション株式会社
- 株式会社コミュニティネットワークセンター
- 株式会社御前崎ケーブルテレビ
- 中部ケーブルネットワーク株式会社

### 建設業

- 株式会社中部プラントサービス
- 株式会社シーテック
- 株式会社トーエネック

- 株式会社トーエネックサービス
- 統一能科建築安装(上海)有限公司
- 台湾統一能科股份有限公司
- TOENEC (THAILAND) CO., LTD.
- TOENEC PHILIPPINES INCORPORATED

### 製造業

- 中部精機株式会社
- 東海コンクリート工業株式会社
- 愛知金属工業株式会社
- 愛知電機株式会社
- 中部液酸株式会社
- 知多炭酸株式会社

### 運輸業

- 中電輸送サービス株式会社
- 新日本ヘリコプター株式会社

### 不動産業

- 中電不動産株式会社
- 株式会社中電オートリース
- 中部冷熱株式会社
- 中電ウィング株式会社
- 東邦産業株式会社

### サービス業等

- 中電ビジネスサポート株式会社
- 中電配電サポート株式会社
- 知多エル・エヌ・ジー株式会社
- 中電エネルギーレーティング株式会社
- 株式会社テクノ中部
- 中電防災株式会社
- 中電興業株式会社
- 知多棧橋管理株式会社

- 株式会社青山高原ウインドファーム
- 株式会社フィルテック
- Chubu Electric Power Australia Pty Ltd.
- Chubu Electric Power Gorgon Pty Ltd.
- Chubu Electric Power Integra Pty Ltd.
- 名古屋都市エネルギー株式会社
- 浜松供給株式会社
- 名古屋熱供給株式会社
- 中部国際空港エネルギー供給株式会社
- 霞ヶ橋管理株式会社
- 株式会社大垣スクールランチサポート
- PFI豊川宝飯斎場株式会社

## 中部電力株式会社

〒461-8680 名古屋市東区東新町1番地  
TEL:052-951-8211(代)

[www.chuden.co.jp](http://www.chuden.co.jp)

経営戦略本部 CSR・業務改革推進グループ 2011年8月発行  
E01-12-1-05



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



印刷工程では、有害廃液を出さない水なし印刷方式を採用しています。



中部電力は、2010年5月に「次世代育成支援対策推進法に基づく次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。



この冊子は、環境に配慮した植物油インキを使用しています。